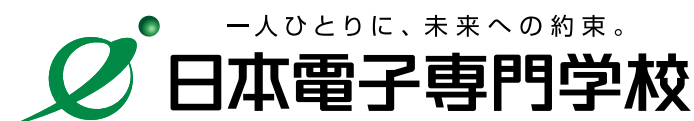


文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業
外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備

事業報告書 令和6年度

外国人IT人材の養成・就職を促進する
専修学校アジア連携留学支援体制の整備



■ まえがき

本報告書は、令和6年度 文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業（外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備）において、学校法人電子学園 日本電子専門学校（以下「当校」）が推進した「外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備」の活動内容および事業成果を取り纏めたものです。

＊

日本のIT産業は近年、デジタルトランスフォーメーション（DX）急速な進展に伴い、質も量も共にIT人材の確保が喫緊の課題になっています。

経済産業省の報告に拠れば、IT人材は2030年に最大で約79万人が不足すると予測され、この課題解決には国内外を問わず多様な人材の確保と養成が求められています。そのような中、即戦力として期待される外国人IT人材の受入れと定着の支援は、業界全体の持続的な成長のために極めて重要な戦略と言えます。

他方で、一方で、日本の高等教育機関における外国人留学生の受入れは、ポストコロナにおいて回復傾向にあるものの、専修学校だけは依然として低調です。加えて、留学生の国内就職率は約40%にとどまっており、企業と留学生を繋ぐ仕組の強化が求められます。日本政府は2033年までに外国人留学生40万人を受け入れるとの目標を掲げていますが、その実現には、専修学校が果すべき役割が今後さらに増大することは明白です。

かような現状を踏まえ、本事業では、東京都に所在する当校が、中国・韓国・ベトナムを主要対象国にし、外国人IT留学生の戦略的な受入れ、実践的なIT教育、持続的な就職・定着支援を一貫して実施する「外国人IT人材アジア連携留学支援体制」の構築を目指しました。

この支援体制では、単に留学生の受入れを拡大するだけでなく、教育機関・企業・行政機関が連携することで、留学生が学びからキャリア形成までをスムーズに進められる仕組を構築・整備する点に特長があります。

本事業には4つの活動趣旨があります。

第一に、オンラインでの広報・募集や交流の活動を強化し、海外の留学志望者に対して日本のIT専門学校で学ぶ意義や将来のキャリアパスを明確に示します。

第二に、IT専門学校における教育プログラムを充実させ、基礎学力の向上や日本語能力の強化と共に、企業との連携による実践トレーニングや課題解決型学習（PBL）を導入して即戦力の養成を図ります。

第三に、留学生の生活支援体制を強化し、言語・文化・法制度・経済面等での不安を解消する取組を進めます。

第四に、留学生の就職支援策を拡充し、企業とのマッチングの最適化と共に、評価・認定制度等の構築を検討し、企業が留学生を安心して受け入れられる仕組を整えます。

特に東京都は、日本経済の中心地であり、IT産業が集積しています。そのため、本事業を成功させれば、その成果が全国の専修学校にも広がる新たな戦略モデルとなると期待できます。それは延いては、日本のIT専門学校の国際的評価の向上に繋がります。その上で、留学生が日本で培った知識・技術を活かして母国や日本のIT産業に貢献することは、日中韓越の経済協力・技術革新の進展にも寄与します。

かくして、本事業の成功には、「オールジャパン」の意識が欠かせません。少子高齢化が進む日本においてIT分野の人材不足を解決して国際競争力を強化するためには、教育機関・産業界・行政が一体になった包括的な取組が求められます。専修学校単独でなく日本全体が協力し合うことで、より効果的な人材養成と定着支援を実現できるのです。

そのため、本事業では、日本国内のIT専門学校や日本語学校・大学、現地の教育機関や有識者、産業界からIT企業や団体、さらに当校が所在する新宿区や東京都にもご参画いただき、正に「オールジャパン」の事業推進体制を敷きました。

「オールジャパン」の考え方は、国内の産学官連携にとどまりません。日本で学んだ留学生が卒業後、国内のIT企業で活躍するだけでなく、母国の産業発展に貢献することも視野に入れています。日本とアジア諸国が協力し、IT分野での人材交流を活発化することで、国際的な技術革新を促し、より強固な経済関係を築けます。こうした持続可能な人材養成モデルこそ、日本の専修学校が果たすべき役割であり、本事業の根幹になる理念です。

本事業を通じて日本全体が一体になり、外国人IT人材の養成と活用に取り組むことで、DX時代に適応した高度人材の供給を実現し、国際社会における日本の存在感をより高めてゆけるものと確信しています。

＊

最後に、本事業での活動に際し、事業推進委員会・分科会を構成する委員各位ならびに関係者の皆様から多大なるご支援を賜りました。ここで、そのご厚情に心から感謝を申し上げます。

令和7年2月

「外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備」事業推進委員会
(代表機関) 学校法人電子学園 日本電子専門学校

目 次

まえがき	i
目 次	iii

第 1 章 事業概要

1.1 事業趣旨	2
1.2 事業背景	3
1.2.1 日本のIT人材事情	3
1.2.2 専修学校の留学生事情	3
1.2.3 東京都のIT人材事情	4
1.2.4 アジア留学生とIT人材事情	5
1.3 事業計画	7
1.3.1 全体スキーム	7
1.3.2 年次計画	8
1.4 事業推進	10
1.4.1 実施内容	10
1.4.2 推進体制	11
1.4.3 事業推進委員会	14

第 2 章 調査報告

2.1 調査概要	16
2.2 調査① IT専修学校留学生受入れ実態調査	17
2.2.1 調査仕様	17
2.2.2 調査内容	17
2.2.3 調査結果	20

2.3 調査② 日本語学校IT留学生進路実態調査.....	24
2.3.1 調査仕様.....	24
2.3.2 調査内容.....	24
2.3.3 調査結果.....	27
2.4 調査③ オンライン教育システム事例調査.....	31
2.4.1 調査仕様.....	31
2.4.2 調査結果.....	31

第3章 開発報告

3.1 開発概要	54
3.2 日本IT留学ウェブサイト	56
3.3 日本IT留学SNS.....	61
3.4 日本IT留学リーフレット	65
3.5 日本IT留学選抜試験	72
3.6 オンライン教育システム仕様.....	88

第4章 催行報告

4.1 オンラインオープンキャンパス概要	92
4.2 オンラインオープンキャンパス催行内容.....	93
4.3 オンラインオープンキャンパス参加アンケート結果	98

第5章 事業総括

5.1 本年度事業の課題	108
5.2 次年度事業の計画	109
5.2 事業終了後の展開	110

第 1 章

事業概要

1.1 事業趣旨

日本では現在、少子高齢化による労働人口の減少に伴い、IT技術者の不足が深刻である。日本のIT人材は2030年までに最大79万人不足すると予測されている。

この問題を解決し得る一策がDXの推進であるが、そのためのIT/DX人材の養成が急務である。また、国際競争力の強化のために多様な人材の確保が求められるが、そこでは外国人IT人材の受入れが鍵になる。

これに併走する形で、日本政府は留学生受入数を2033年までに40万人にする目標を掲げた。専修学校はそこで、重要な役割を担っている。

しかし、ポストコロナ時代に入った2023年、高等教育機関のうち専修学校だけが留学生受入数において回復の兆しを見せていない。また、留学生の日本での就職率は約40%に留まっている。

そのため、留学生の受入れ戦略と共に、就職支援や企業連携の強化が求められる。

その際、東京都は日本経済の中心で、IT企業が集中し、外国人IT人材も全国最多ではあるが、その人材不足はやはり深刻で、IT分野留学生に対する期待も高まっている。

そこで、本事業では、東京都に所在するIT専修学校が、近年急速な経済成長とIT産業の発展を遂げている中国・韓国・ベトナムを対象にし、そこからの留学生受入れを増加した上で、彼らへの実践的なIT教育と生活サポートを強化し、企業等との連携を通じた就職促進を実現する、入口から出口までの一貫した支援体制のモデル構築を試みる。

これにより、日本のIT専修学校の国内外での評価を向上させるのと共に、留学生の国際的キャリア形成を支援しながら、日本のIT産業における人材供給と競争力強化に寄与し、日中韓越の経済協力と技術革新を促進することを目指す。

1.2 事業背景

1.2.1 日本のIT人材事情

IT人材の不足

日本は少子高齢化によって労働人口が減少し、特にIT分野では技術者不足が深刻である。経済産業省に拠れば、2030年までに最大で約79万人のIT人材が不足する可能性がある^{★1}。この不足は、新たな技術の開発と普及に対応できる人材が圧倒的に不足していることに起因する。

DXの推進

他方で、日本企業は現在、競争力を維持して国際市場での地位を確保するべく、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進している。IPAに拠れば、DXは、企業の生産性向上と新たなビジネスモデルの創出に不可欠であり、そのためのIT人材の育成が急務である^{★2}。

国際競争力の強化

かくして、日本のIT産業は現在、国際競争力を強化するべく、多様な人材を求めている。グローバルな視点を有する外国人IT人材は、新たなアイデアや技術をもたらし、イノベーションを促進することが期待される。かような多様性（ダイバーシティ）のある職場は、創造性と生産性が高まる傾向にある^{★3}。

1.2.2 専修学校の留学生事情

留学生受入れ数の目標と専修学校の役割

外国人留学生は、新型コロナウイルス感染症の影響で2022年に約23万人に減少したが、ポストコロナ時代の動向として2033年までに40万人の受入れを目指す政府目標が掲げられている^{★4}。この目標の達成には、現在の留学生数全体の約22%を占め、専門的な技術教育・職業教育を提供して実務に直結したスキルのある人材を養成する専修学校が果たすべき役割が重要である。ゆえに、専修学校における留学生の受入れや就職・国内定着支援等がこれまで以上に求められるところである。

ところが、コロナ禍の前後を含む直近5年間の高等教育機関等への留学生数を見ると、どの教育機関も

2020年から留学生受入数が減ったが、ポストコロナ時代に入った2023年、専修学校以外の教育機関は復調の兆しを示している^{★5}。つまり、専修学校だけが留学生受入数を回復できていないのである（下表参照）。これは、深刻な状況かつ喫緊の課題である。かくして、専修学校と日本語学校、そして産業界が連携する、留学生受入れの新たな戦略モデルが求められる。

年	留学生総数	高等教育機関				日本語教育機関
		大学院	大学・短期大学・ 高等専門学校	専修学校 (専門課程)	準備教育機関	
2019年	312214人	53089人	92952人	78844人	3518人	83811人
2020年	279597人	53056人	83077人	79598人	3052人	60814人
2021年	242444人	52759人	76499人	70268人	2351人	40567人
2022年	231146人	53122人	74390人	51955人	2274人	49405人
2023年	↗ 279274人	↗ 55539人	↗ 82818人	↘ 46325人	↗ 3873人	↗ 90719人

高等教育機関・日本語教育機関における留学生数の推移： 2019～2023年

就職率向上の必要

専修学校への留学生の日本での就職率は40%弱に留まっている^{★6}。これは、留学生が専修学校で習得した知識や技術を日本の実際の職場で活用する機会が限られているということである。かような状況を改善するべく、専修学校は、留学生の就職支援や企業等との連携を強化する必要がある。

特に本事業の取組地域で当校が所在する東京都は、留学生数が他府県に比べて圧倒的に多い地域であるが、その専修学校留学生の約7割が、そして工業分野留学生に限れば8割強が卒業後は日本で就職したいとの意向を持っている^{★7}。ゆえに、東京都のIT分野の専修学校留学生の受入れ・就職支援等の促進策は、延いては専修学校全体の留学生教育の振興を先導する戦略モデルになり得る。

1.2.3 東京都のIT人材事情

労働市場の現状

本事業の取組地域である東京都は、日本経済の中心であり、多くのIT企業が集中している上に、デジタル技術の発展を促進してスマートシティの構築を目指している^{★8}。それにも拘らず、IT人材の不足が深刻な問題に

なっている。経済産業省に拠れば、東京都も全国と同様、IT人材の需要が供給を上回り、2030年に約55万人のIT人材が不足する見込みである^{★9}。

外国人材の重要性

東京都は、多様性と国際化の推進に積極的で、外国人材の採用が経済成長の鍵になり、“東京”の国際競争力を高めると考えている。外国人材の活用により、新たな視点や技術が導入されて企業等のイノベーションが促進されることで、東京都のIT産業全体の競争力が向上すると言う^{★10}。

IT分野留学生の価値

東京都のIT企業は、国際競争力を高めるべく多様な人材を必要としている。そこで、IT分野留学生は、高度のスキルと異文化理解を兼ね備えた即戦力として期待されている。実際、情報通信業に従事する外国人材の割合は東京都では第3位（全国では第6位）で、全国の情報通信業に従事する外国人材の約45%が東京都に所在する^{★11}。そして、東京都の留学生受入数は全国最多であるが、特にIT分野留学生には高い需要がある。東京都の専修学校が留学生受入れを拡大して実践的なIT教育を提供することで、最新の技術と実務経験を有する外国人IT人材が養成され、留学生こそIT人材不足解消の鍵になり得る。

1.2.4 アジア留学生とIT人材事情

急速な経済成長とIT人材需要

本事業のターゲット国である中国・韓国・ベトナムは近年、急速な経済成長を遂げ、特にIT産業の発展が顕著である。例えば中国は、第四次産業革命の柱であるAI・ビッグデータ・IoT・ロボット等の分野でも世界をリードし、優秀なIT人材が豊富である。現地シンクタンクに拠れば、中国人留学生数は2021年に102万人を超え（世界最多）、その多くがIT分野を志望している^{★12}。それは、今やIT先進国として知られる韓国や、数々の世界的IT企業が拠点を置くベトナムも同様に、IT人材需要の増加に伴い、IT分野への進学意欲が高い。しかし、IT産業が急速に発展するこの3国でも例に漏れず、IT人材の需給ギャップが生じている。特に高度スキルを有するIT人材が不足し、国や企業はグローバルな視点を持つIT人材を求めている。

IT分野専修学校への留学の魅力

実践的な職業教育と最新の技術設備を提供する日本の専修学校では、留学生は即戦力になるスキルを習得できる。

特に東京都は、多くのIT企業やスタートアップが集中しているため、インターンシップや就職の機会も豊富である。

日本で学ぶことで、留学生は国際的なキャリアパスを築ける。日本企業での就職経験は、帰国後のキャリアにも大きなプラスになる。特に中国・韓国の場合、自国の進学・就職競争が苛烈であるため、国外への留学・就職は彼らにとって進路の大きな選択肢の一つになっている。日本のIT企業は多国籍化が進んで外国人材の受入体制も比較的整っているため、留学生にとって魅力的な就職先になり得る。それはベトナムの学生にとっても同様で、日本企業への就職は大きな魅力であり、それに先立つ職業教育機関として専修学校が有力候補になる。

＊

ポストコロナ時代に入り、日本政府も、従来の「留学生30万人計画」から10年後の留学生受入数40万人へと目標値を上方修正してきた。しかし、現在、高等教育機関の中で専修学校だけがそれに向けて少し出遅れている。加えて、留学生の日本での就職・定着にも課題がある。

かくして、それを解決するべく、留学生の受入れから教育・生活・就職・定着までを一貫して産学官連携で支援する体制モデルの構築が求められる。

留学生を今以上に受け入れることで、専修学校は多様性を高め、教育の質を向上できる。そして、日本人学生は、異文化交流を通じて国際的な視野を広げられる。他方で、留学生は日本の先進的な技術やビジネス文化を学び、日本（または自国）のIT産業に貢献できる。高度の技能を持つ人材が増えることで、日本のIT産業は更に活性化し、技術革新が促進される。延いては、東京都の経済成長にも寄与する。相手国のIT産業においても、日本での学習経験を持つ人材が活躍することで、技術力の向上と国際競争力の強化が期待される。

また、専修学校の留学振興を考える場合、大学等におけるダブルディグリー／ジョイントディグリー等に類する制度の構築についても、検討が求められよう。本事業では、その辺りの議論も含めた留学支援体制モデルの提案も企図する。

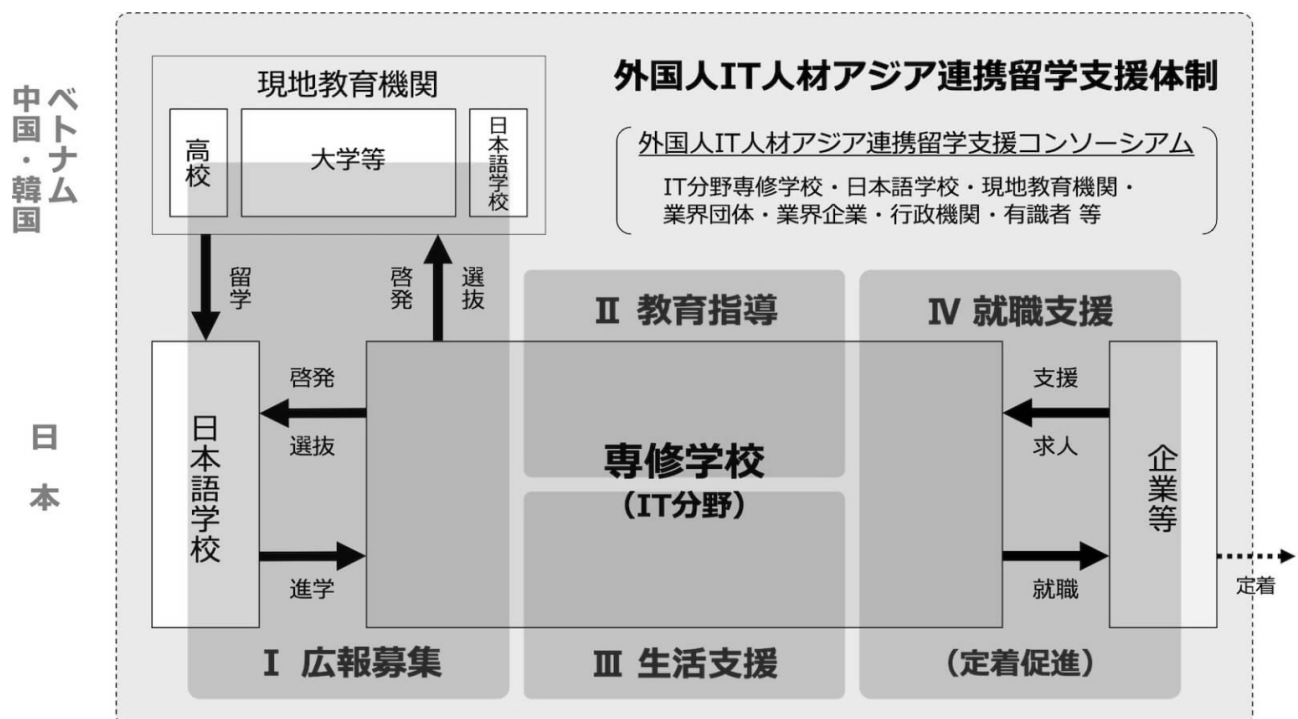
- ★1 経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課「IT人材育成の状況等について」2019年3月
- ★2 独立行政法人情報処理推進機構『「DX推進指標」とそのガイダンス』2023年12月
- ★3 経済産業省 経済産業政策局 経済社会政策室「ダイバシティ経営の推進について」2024年2月
- ★4 内閣官房 教育未来創造会議「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ」2023年4月
- ★5 独立行政法人日本学生支援機構「2023（令和5）年度 外国人留学生在籍状況調査結果」2024年5月
- ★6 株式会社三菱総合研究所『専修学校における留学生教育のポイント【改訂版】～留学生の教育体制整備の充実に向けて～』（文部科学省委託事業「専修学校におけるグローバル化対応に係る実態等調査」）2020年2月
- ★7 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会『専門学校に在籍する留学生の実態調査 報告書』（文部科学省委託「専修学校グローバル化対応推進支援事業」）2021年3月
- ★8 東京都「スマート東京実施戦略 SEASON 5～2024（令和6）年度の取組～」2024年3月
- ★9 みずほ情報総研株式会社『IT人材需給に関する調査 報告書』（経済産業省委託「IT人材等育成支援のための調査分析事業」）2019年3月
- ★10 東京都産業労働局『外国人材と働くためのハンドブック～採用から定着まで～』2021年3月
- ★11 同前「中小企業における外国人材活用の現状と課題」2020年7月
- ★12 全球化智库（CCG）『中国留学発展報告 No.8（2022）』2023年7月

1.3 事業計画

1.3.1 全体スキーム

本事業では、専修学校留学生教育の新たな戦略モデルにおいてDXにも対応しうる外国人IT人材を養成するべく、日本の専修学校・日本語学校・産業界とアジア（中国・韓国・ベトナム）の現地教育機関が連携し、オンラインでの授業提供や学修評価を実現する**教育基盤**と、留学生の受入れ・就職を促進する**支援体制**を一体化した外国人IT人材アジア連携留学支援体制を構築する。これにより、IT分野専修学校における入口から出口までの一貫した留学生支援と人材供給ルートの確保を可能にする。

その際、この支援体制では、専修学校における留学生対応活動を、**広報募集／教育指導／生活支援／就職支援**という4つの局面で支援する。



I 広報募集

ウェブサイトやSNSに活用により、日本での学びや就職、専修学校の魅力、各種制度等に関する情報を発信し、啓発活動を行う。また、オンラインオープンキャンパスの実施により、現地学生が自国にしながら留学先の学校や留学経験者等と交流できる機会を設け、留学候補者の確保を支援する。そして、募集活動の一環として選抜試験や短期の入学前教育を実施する。

II 教育指導

入学後の通常カリキュラムでは手薄になりがちな日本語能力の強化や職業マインドの醸成、日本事情・文化の理解等について、オンラインで補完学習を進められる教育プログラムを展開し、彼らの学びを支援する。また、実践的教育として企業等と連携した対面でのPBL（課題解決型学習）や職場体験も実施する。さらに、その学修を評価・認定する制度も整備する。

III 生活支援

留学生が在学中に日本での学びや暮らしを安心して継続できるよう、在籍管理から生活サポートまで広く、彼らを支援する。そのため、普段彼らとの接触が多い留学生担当等の教職員を対象にした啓発コンテンツの制作や情報共有会・研修会等の開催、インターカレッジでの留学生交流会等の企画を実施する。

IV 就職支援

求人情報の提供の他、各留学生の希望条件・能力要件等に合せて就職先とのマッチング支援を行う。その一環として、学校の質保証によって就職先がその学校の卒業生を安心して受け入れられるような評価・認定制度を構築する。また、留学生が就職後も継続的に学びを深められるような教育コンテンツを提供したり相談窓口を開設したりすることで、日本での定着の促進を図る。

1.3.2 年次計画

本事業は、令和6～9年度の4年間で推進するものである。

各年度の事業は、**会議・調査・開発・催行・報告**という共通の枠組で推進する。

会議： 事業の推進および各活動の実作業に関する協議

調査： 開発や催行に資する基礎資料の作成のための3テーマに関する調査

開発： 広報や各種支援に資する媒体や、教育プログラムおよび各種コンテンツの制作・作成

催行： 海外の日本留学志望者向けのオンラインオープンキャンパスや、国内の留学生・教職員・企業等向けの交流会・研修会・説明会等の開催・実施

報告： 事業実施の取り纏めとして成果報告会の開催と事業報告書（本書）の作成

そして、各年度の取組は、1.3.1で見た留学生対応活動の4局面に基づき、次のような展開で推移する。

令和6年度：【活動Ⅰ】入学前の広報募集

令和7年度：【活動Ⅱ】在学中の教育指導

令和8年度：【活動Ⅲ】在学中の生活支援

令和9年度：【活動Ⅳ】卒業年の就職支援

その上で、各年度の具体的な取組内容を次のように設定する。

▼ 各年度の取組内容

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	【活動Ⅰ】 入学前の広報募集	【活動Ⅱ】 在学中の教育指導	【活動Ⅲ】 在学中の生活支援	【活動Ⅳ】 卒業年の就職支援
会議	○ 事業推進委員会 3回開催 ○ 分科会 3回開催	○ 事業推進委員会 3回開催 ○ 分科会 3回開催	○ 事業推進委員会 3回開催 ○ 分科会 3回開催	○ 事業推進委員会 3回開催 ○ 分科会 3回開催
調査	① IT専修学校留学生受入れ 実態調査 ② 日本語学校IT留学生進路 実態調査 ③ オンライン教育システム 事例調査	④ IT専修学校留学生教育 実態調査 ⑤ IT留学予備生キャリア 意識調査 ⑥ IT留学生用日本語教材 事例調査	⑦ IT専修学校留学生支援 実態調査 ⑧ IT留学生日本生活実態調査 ⑨ 在留外国人支援サービス 事例調査	⑩ IT専修学校留学生就職 実態調査 ⑪ IT企業留学生採用実態調査 ⑫ IT留学生キャリア意識調査
開発	01 日本IT留学ウェブサイト制作 02 日本IT留学SNS設定・運用 03 日本IT留学リーフレット制作 04 日本IT留学選抜試験作成 05 オンライン教育システム 仕様策定	06 日本留学広報媒体改良拡張 07 オンライン教育システム開発 08 IT留学生教育プログラム開発 09 IT留学生教育コンテンツ制作 10 IT留学生学修評価基準策定	11 IT留学生教育プログラム 改良拡張 12 留学生生活支援指導ガイド (動画・リーフレット等)制作 13 留学生向け生活支援ガイド (動画・リーフレット等)制作	14 IT企業向け 留学生採用PRコンテンツ (動画・リーフレット等)制作 15 IT留学生向け 就職促進コンテンツ (動画・リーフレット等)制作 16 IT留学生就職支援制度設計
催行	◆ オンラインオープンキャンパス 韓国 2回開催 ◆ オンラインオープンキャンパス 越南 2回開催	◆ オンラインオープンキャンパス 中韓越 計3回開催 ◆ 実証講座(1～2箇月)実施 ◆ IT実務家講演会 1回開催	◆ オンラインオープンキャンパス 中韓越 計3回開催 ◆ 留学生生活支援研修会 3回開催 ◆ 留学生交流会 1～2回開催	◆ オンラインオープンキャンパス 中韓越 計3回開催 ◆ 企業向けIT専修学校説明会 2回開催 ◆ IT留学生就職促進フェア 2回開催
報告	○ 成果報告会 3回開催 ○ 事業報告書 300部作成	○ 成果報告会 3回開催 ○ 事業報告書 300部作成	○ 成果報告会 3回開催 ○ 事業報告書 300部作成	○ 成果報告会 3回開催 ○ 事業報告書 300部作成

各年度によって活動テーマは異なるが、いずれの年度の取組でも、事業推進委員会を3回、そしてオンラインオープンキャンパスも3回開催する。

1.4 事業推進

本事業は本年度（令和6年度）、令和6年9月27日から令和7年3月1日まで、5箇月強に亘って実施された。

その間、事業を実施するための事業推進委員会・分科会、そして事業成果を共有するための成果報告会を東京都（千代田区）で開催した。

その上で、本事業の実施内容および推進体制は、次の通りである。

1.4.1 実施内容

本事業は令和6～9年度の4年間で推進するもので、各年度の年次計画は1.3.2で見た通りであるが、本年度（令和6年度）事業では実際、次のようなことに取り組んだ。

会議	○ 事業推進委員会	3回開催	第1回：10月11日、第2回：12月13日、第3回：2月7日に開催
	○ 分科会	4回開催	各取組の進捗状況等に応じ、事業推進委員会の前後に開催
調査	① IT専修学校留学生受入れ実態調査		質問紙法&ウェブ回答／IT留学生受入れ専修学校100校対象
	② 日本語学校IT留学生進路実態調査		質問紙法&ウェブ回答／IT留学生在籍日本語学校100校対象
	③ オンライン教育システム事例調査		デスクリサーチ／EdTech市場等対象
開発	01 日本IT留学ウェブサイト制作		IT専修学校への留学を促すPRウェブサイトの制作／日英韓越語対応
	02 日本IT留学SNS設定・運用		IT専修学校への留学を促すFacebookページの運用／日英韓越語対応
	03 日本IT留学リーフレット制作		日本IT留学ウェブサイトの要約版小冊子の制作／日英韓越語対応
	04 日本IT留学選抜試験作成		IT留学生教育への導入としての選抜試験（3科目）
	05 オンライン教育システム仕様策定		次年度に取り組むIT留学生教育プログラム開発の準備作業
催行	◆ オンラインオープンキャンパス	4回開催（韓国2回・ベトナム2回）	韓国：12月5・7日、ベトナム：12月22日に開催
報告	○ 成果報告会	1回開催	2月7日に開催
	○ 事業報告書	300部作成	事業推進委員および関係者に配付、データはウェブサイトで公開予定

1.4.2 推進体制

本事業の推進体制として、**事業構成機関**（機関として本事業に参画した学校・企業・団体等）は次の通りである。

機関区分	名 称	役割等	都道府県
教育機関	学校法人電子学園 日本電子専門学校	事業統括 全活動企画・実施	東京都
	学校法人吉田学園 吉田学園情報ビジネス専門学校	モデル検討・構築 プログラム開発	北海道
	学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台	モデル検討・構築 プログラム開発	宮城県
	学校法人中央工学校 中央工学校附属日本語学校	留学生支援策検討 プログラム開発	東京都
	学校法人アジアの風 岡山外語学院	留学生支援策検討 プログラム開発	岡山県
	学校法人久留米ゼミナール 専修学校久留米ゼミナール 日本語学科	留学生支援策検討 プログラム開発	福岡県
	学校法人電子学園 情報経営イノベーション専門職大学	モデル検討・構築 プログラム開発	東京都
	国立大学法人信州大学 グローバル化推進センター	留学生支援策検討 留学生教育情報提供	長野県
業界団体 関連企業	JTP株式会社	モデル助言・評価 プログラム開発	東京都
	株式会社オリジネーター	外国人雇用情報提供 留学生支援策検討	東京都
	東京商工会議所 墨田支部	外国人雇用情報提供 モデル助言・評価	東京都
	公益財団法人日本数学検定協会	モデル助言・評価 プログラム開発	東京都
	一般社団法人外国人留学生高等教育協会	留学生教育連携強化 事業成果普及	東京都
行政機関	東京都 産業労働局 雇用就業部	外国人雇用情報提供 モデル助言・評価	東京都
	東京都 新宿区 地域振興部	外国人雇用情報提供 モデル助言・評価	東京都
有識者	瑞逸大学校ビジネス日本語学科／NHK語学院	日本-アジア連携強化 留学生支援策検討	韓 国

以上の各機関には、事業推進のために次のような協力を要請した。

教育機関

- 専修学校留学生の教育・各種支援策・就職状況等に関する情報提供
- 専修学校留学生の受入れモデルの検討・構築や教育プログラムの開発
- 教育プログラムおよび各種研修・催事等の実施に係る準備やリソース提供

企業・団体

- IT業界における外国人材雇用の実態・課題・需要等に関する情報提供
- 専修学校留学生教育の振興に資する日本-アジア連携の支援・強化
- 専修学校留学生の受入れモデルの助言・評価や教育プログラムの開発
- 教育プログラムおよび各種研修・催事等の実施に係る準備やリソース提供

行政機関

- 対象地域の当該分野の社会的課題・産業事情等に関する情報提供と助言
- 対象地域の当該分野の専修学校留学生教育モデル等に関する助言

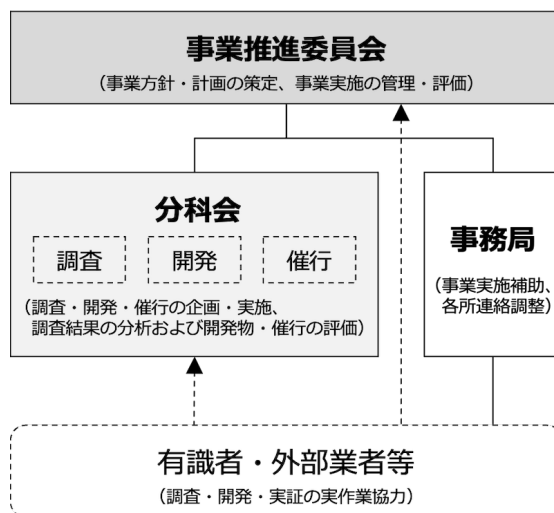
そして、開発した教育プログラムおよび各種成果物に対する評価と、事業終了後の展開策の検討に関する協力を全機関に要請した。

その上で、本事業の実施体制として、**事業推進委員会**と**分科会**を設置した。

事業推進委員会（当校主幹）は、事業推進の方針・計画・内容・方法等、本事業の重要事項を検討・決定し、事業全体のマネジメントや成果の評価等を担う。その構成機関は、IT分野専修学校や日本語教育機関の他、当該分野の専門教育や留学生支援に関する豊富な知見・ノウハウ・実績等を有する団体・企業、そして本事業対象地域の自治体である。

分科会は、事業推進委員会が決定した方針・事項等に従い、調査・開発等の各活動の仕様策定や実作業を担う。その際、実作業の一部は、事業推進委員会・分科会の管理の下、有識者・外部企業等の協力を得て進める。

また、文部科学省および事業推進委員会・分科会構成機関への連絡・調整の他、事業経費や各種文書の管理等の事務作業は、**事務局**が担う。



尚、本事業の**事業推進委員会構成員**（事業構成機関からの参画者および個人での参画者等）は次の通りである。

No	氏 名	所属・役職	都道府県
1	寺 脇 保	学校法人電子学園 日本電子専門学校 経営企画室 室長・常務理事	東京都
2	山 上 力	学校法人電子学園 日本電子専門学校 経営企画室 事業開発担当部長	東京都
3	木 村 佑	学校法人電子学園 日本電子専門学校 広報部 部長	東京都
4	吉 田 浩 晃	学校法人吉田学園 吉田学園情報ビジネス専門学校 総合事務局長	北海道
5	梅 川 明 寛	学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台 専務理事	宮城県
6	須 郷 弥	学校法人中央工学校 中央工学校附属日本語学校 校長	東京都
7	森 下 明 子	学校法人アジアの風 岡山外語学院 副理事長	岡山県
8	徳 安 貞 子	学校法人久留米ゼミナール 専修学校久留米ゼミナール 日本語学科長・理事	福岡県
9	古 賀 稔 邦	学校法人電子学園 情報経営イノベーション専門職大学 副学長	東京都
10	仙 石 祐	国立大学法人信州大学 グローバル信州推進本部 講師	長野県
11	古 川 宏 幸	JTP株式会社 コーポレート本部 人事部長	東京都
12	工 藤 尚 美	株式会社オリジネーター 取締役・専務執行役員	東京都
13	清 水 竜	東京商工会議所 墨田支部 事務局長	東京都
14	高 田 忍	公益財団法人日本数学検定協会 理事長	東京都
15	有 我 明 則	一般社団法人外国人留学生高等教育協会 理事・事務局長	東京都
16	高 須 信 二	東京都 産業労働局 雇用就業部 人材確保支援担当課長	東京都
17	櫻本まり子	新宿区 地域振興部 多文化共生推進課長	東京都
18	李 侖 珍	瑞逸大 schools ビジネス日本語学科 兼任教授（文学博士）／ NHK語学院 院長	韓 国
19	宋 敬 珠	慶熙大 schools 外国語大 schools 日本語学科 兼任教授（語学博士）／ NHK語学院 教育部長	韓 国
20	菊 池 香 織	学校法人久留米ゼミナール 専修学校久留米ゼミナール 日本語学科 教務課 主任	福岡県

1.4.3 事業推進委員会

事業推進の中心的役割を担う**事業推進委員会**（その構成員は1.4.2）は、次の日時・場所で本事業期間内に3回開催された。

- ▶ 第1回： 令和6年10月11日（金）15:00～17:00 @アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
- ▶ 第2回： 令和6年12月13日（金）15:00～17:00 @ホテルグランドヒル市ヶ谷（東京都千代田区）
- ▶ 第3回： 令和7年2月7日（金）15:00～17:00 @アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）

各回の概要は次の通りである。

回 次	第1回	第2回	第3回
日 時	令和6年10月11日（金） 15:00～17:00	令和6年12月13日（金） 15:00～17:00	令和7年2月7日（金） 15:00～17:00
場 所	アルカディア市ヶ谷 （東京都千代田区）	ホテルグランドヒル市ヶ谷 （東京都千代田区）	アルカディア市ヶ谷 （東京都千代田区）
議 事	1 委員長挨拶 2 各委員挨拶 3 事業計画概要共有 4 事業推進方針討議	1 委員長挨拶 2 事業進捗状況共有 3 事業推進方針討議 4 意見交換	1 委員長挨拶 2 本年度事業成果報告 3 課題検討 4 意見交換
配付物	① 委員名簿 ② 事業計画書 ③ 第1回事業推進委員会検討資料	① 委員名簿 ② 第1回事業推進委員会議事録 ③ 第2回事業推進委員会検討資料 ④ OOC参加アンケート韓国回答集計 ⑤ オンライン教育システム事例調査 ⑥ 日本IT留学選抜試験：職業意識	① 委員名簿 ② 第2回事業推進委員会議事録 ③ 第3回事業推進委員会検討資料 ④ IT専修学校留学生受入れ実態調査 ⑤ 日本語学校IT留学生進路実態調査 ⑥ 日本IT留学選抜試験：言語・ 非言語領域 ⑦ OOC参加アンケート ベトナム回答集計
備 考	閉会後に調査・催行分科会開催	閉会後に開発・催行分科会開催	会前後に催行分科会開催 閉会後に成果報告会開催

尚、事業推進委員会の第1回の閉会後に調査分科会・催行分科会（該当委員等）、第2回の閉会後に開発分科会・催行分科会（該当委員等）、そして第3回の会前後に催行分科会（該当委員等）と閉会後に成果報告会（全委員）が開催された。

第2章

調査報告

2.1 調査概要

本事業では本年度（令和6年度）、広報募集活動における開発・催行に先立ち、それに資する次の3調査を実施した。

調査①： IT専修学校留学生受入れ実態調査

調査②： 日本語学校IT留学生進路実態調査

調査③： オンライン教育システム事例調査

この3調査は各々、本年度の活動取組の基礎資料にするべく、次のような目的で実施した。

調査① IT専修学校留学生受入れ実態調査

IT専修学校における留学生受入れの実態を把握することで、本事業における広報募集活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にする。

調査② 日本語学校IT留学生進路実態調査

IT分野への進学・就職を希望して日本語学校に通う留学生のキャリア形成に関する意識や実態を把握することで、本事業における広報募集・教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にする。

調査③ オンライン教育システム事例調査

昨今のICT教育におけるオンライン教育システム事例の実態を把握することで、本事業（次年度）における留学生補完教育プログラム開発の基礎資料にする。

次節以降、この3調査の各々について、調査内容・調査結果等を詳説する。

2.2 調査① IT専修学校留学生受入れ実態調査

調査①はIT専修学校留学生受入れ実態調査である。

これは、IT専修学校における留学生受入れの実態を把握することで、本事業における広報募集活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にするためのものである。

その調査仕様・調査結果を以下に報告する。

2.2.1 調査仕様

本調査の仕様（目的・対象・手法・内容・反映方針等）は次の通りである。

名 称	IT専修学校留学生受入れ実態調査
目 的	IT専修学校における留学生受入れの実態を把握することで、本事業における広報募集活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にする。
対 象	全国のIT留学生受入れ専修学校100校程度
手 法	質問紙法&ウェブ回答
項 目	受入れ留学生の人数・国籍・経路・日本語能力・選抜方法・近年推移・課題・募集上の工夫 等

2.2.2 調査内容

本調査における具体的な質問項目は次の10項である。

回答者校における――

- ① 在籍留学生数 ② 在籍留学生の出身地 ③ 留学生受入数の近年推移 ④ 留学生受入れ経路
- ⑤ 入学時の留学生の日本語能力 ⑥ 留学生選抜方法 ⑦ 留学生募集の主な広報手段
- ⑧ 留学生受入れ増のための募集上の工夫 ⑨ 留学生受入れ増のための留学生支援策
- ⑩ 留学生受入れに関する直近の課題

これに基づいて作成した調査票を以下に掲載する。

▼【調査票】調査① IT専修学校留学生受入れ実態調査

【調査票】調査① IT専修学校留学生受入れ実態調査

問1 貴校に在籍する留学生は何人ですか。[1つ選択]

- ☐ 10人以下 ☐ 11～20人 ☐ 21～30人 ☐ 31～50人 ☐ 51～100人
☐ 101～200人 ☐ 201～300人 ☐ 301～400人 ☐ 401～500人 ☐ 501人以上

問2 貴校に在籍する留学生の主な出身地はどこですか。[3つ選択]

- ☐ 中国 ☐ 韓国 ☐ 台湾 ☐ インド ☐ インドネシア
☐ スリランカ ☐ タイ ☐ ネパール ☐ パキスタン ☐ バングラデシュ
☐ フィリピン ☐ ベトナム ☐ ミャンマー ☐ モンゴル ☐ その他

問3 貴校における留学生受入れ数の近年推移はいかなる傾向ですか。[1つ選択]

- ☐ 大幅に増加傾向
☐ やや増加傾向
☐ 横這い（特に変化なし）
☐ やや減少傾向
☐ 大幅に減少傾向

問4 貴校の主な留学生受入れ経路は何ですか。[2つ選択]

- ☐ 海外現地の提携校から ☐ 日本国内の日本語学校から
☐ 留学生本人の直接応募 ☐ 留学エージェントから
☐ 他教育機関との連携による推薦制度を利用
☐ 企業・団体等からの紹介 ☐ 貴校独自の海外PR・リクルート活動による
☐ 国・自治体の支援プログラムを利用 ☐ 既存留学生からの紹介（口コミを含む） ☐ その他

問5 貴校に入学する際の留学生の日本語能力は主にどの程度ですか。[1つ選択]

- ☐ N1相当
☐ N2相当
☐ N3相当
☐ N4相当
☐ N5相当
☐ JLPT未受験であるが日常会話は可能
☐ JLPT未受験で日常会話は困難
☐ 日本語学校を卒業済み
☐ 企業研修等で日本語学習済み
☐ その他

問6 貴校に入学する留学生の主な選抜方法は何ですか。[3つ選択]

- ☐ 書類審査のみ ☐ 日本語試験（筆記） ☐ 数学・理科系試験（筆記）
☐ ITスキル試験（筆記） ☐ 作文・小論文試験
☐ 面接（オンライン面接を含む） ☐ 日本語学校の成績・推薦状 ☐ 企業・団体等の推薦制度
☐ 留学エージェントの選抜試験等 ☐ その他

問7 貴校における留学生募集のための主な広報手段は何ですか。[3つ選択]

- | | | |
|---|--|--------------------------------------|
| ☐ 入学案内・パンフレット等 | ☐ ウェブサイト | ☐ SNS |
| ☐ 説明会・オープンキャンパス | ☐ 留学フェア等での出展 | ☐ 海外現地オフィスの設置 |
| ☐ 海外現地教育機関の訪問 | ☐ 各国在日留学生協会との連携 | |
| ☐ 日本留学経験者（在校生・卒業生等）を介したアプローチ | ☐ その他 | |

問8 貴校における留学生受入れ増のための募集上の工夫は何ですか。[3つ選択]

- | | |
|---|------------------------------|
| ☐ 海外現地での直接PR・説明会の開催 | |
| ☐ 日本国内の日本語学校との提携の強化・拡充 | |
| ☐ ITスキル教育と連携したPR戦略 | |
| ☐ SNS・デジタルマーケティング等の活用 | |
| ☐ 既存留学生による紹介制度・口コミ等の強化 | |
| ☐ 奨学金・学費補助制度の完備をアピール | |
| ☐ 留学生向け生活支援の充実をアピール | |
| ☐ 留学生向け就職支援の充実をアピール | |
| ☐ 企業・団体等との連携を強化した留学生誘致 | ☐ その他 |

問9 貴校における留学生受入れ増のための留学生支援策は何ですか。[3つ選択]

- | | | |
|---|---|------------------------------------|
| ☐ 学生寮の完備 | ☐ 就職先の確保 | ☐ アルバイト先の確保 |
| ☐ 公的奨学金の申請支援 | ☐ 自校または連携企業等の奨学金・学費減免制度の適用 | |
| ☐ 校内の多言語対応の強化 | ☐ 校内の留学生交流機会の充実 | |
| ☐ 信仰がある留学生への対応（礼拝所設置等） | | |
| ☐ 特に実施していない | ☐ その他 | |

問10 貴校における留学生受入れに関する直近の課題は何ですか。[3つ選択]

- | | | |
|--|---|--------------------------------------|
| ☐ 日本語能力の不足 | ☐ 学費・生活費負担の増加 | ☐ 留学生の学習意欲の低さ |
| ☐ 留学生の定着率の低さ | ☐ 教職員の対応負担の増加 | ☐ 在留資格手続等の煩雑さ |
| ☐ 留学生向け就職支援の難しさ | ☐ 留学生の生活・住居支援の不足 | |
| ☐ 他校との競争激化（留学生獲得の難しさ） | ☐ その他 | |

質問は以上です。ありがとうございました。

2.2.3 調査結果

本調査の結果は次の通りである。

問1 貴校に在籍する留学生は何人ですか。

選択肢	n	%
10人以下	3	6.8
11～20人	4	9.1
21～30人	7	15.9
31～50人	10	22.7
51～100人	9	20.5
101～200人	6	13.6
201～300人	4	9.1
301～400人	1	2.3
401～500人	0	0.0
501人以上	0	0.0

[n=44、SA]

問2 貴校に在籍する留学生の主な出身地はどこですか。

選択肢	n	%
中国	33	75.0
ネパール	19	43.2
韓国	14	31.8
ベトナム	13	29.5
インドネシア	10	22.7
インド	9	20.5
フィリピン	8	18.2
台湾	6	13.6
スリランカ	4	9.1
タイ	4	9.1
パキスタン	3	6.8
その他	3	6.8
バングラデシュ	2	4.5
ミャンマー	2	4.5
モンゴル	2	4.5

[その他：「ナイジェリア」「ブラジル」「ロシア」、n=44、MA3]

問3 貴校における留学生受入れ数の近年推移はいかなる傾向ですか。

選択肢	n	%
大幅に増加傾向	4	9.1
やや増加傾向	21	47.7
横這い（特に変化なし）	9	20.5
やや減少傾向	8	18.2
大幅に減少傾向	2	4.5

[n=44、SA]

問4 貴校の主な留学生受入れ経路は何ですか。

選択肢	n	%
日本国内の日本語学校から	38	86.4
留学エージェントから	27	61.4
海外現地の提携校から	7	15.9
貴校独自の海外PR・リクルート活動による	4	9.1
留学生本人の直接応募	3	6.8
企業・団体等からの紹介	3	6.8
他教育機関との連携による推薦制度を利用	2	4.5
国・自治体の支援プログラムを利用	2	4.5
既存留学生からの紹介（口コミを含む）	1	2.3
その他	1	2.3

[その他：「日本国内の専門学校・大学から」、n=44、MA2]

問5 貴校に入学する際の留学生の日本語能力は主にどの程度ですか。

選択肢	n	%
N1相当	4	9.1
N2相当	12	27.3
N3相当	10	22.7
N4相当	7	15.9
N5相当	4	9.1
JLPT未受験であるが日常会話は可能	3	6.8
JLPT未受験で日常会話は困難	1	2.3
日本語学校を卒業済み	1	2.3
企業研修等で日本語学習済み	1	2.3
その他	1	2.3

[その他：「CEFR B2相当」、n=44、SA]

問6 貴校に入学する留学生の主な選抜方法は何ですか。

選択肢	n	%
面接（オンライン面接を含む）	37	84.1
日本語試験（筆記）	35	79.5
作文・小論文試験	19	43.2
書類審査のみ	10	22.7
日本語学校の成績・推薦状	7	15.9
数学・理科系試験（筆記）	6	13.6
ITスキル試験（筆記）	6	13.6
企業・団体等の推薦制度	5	11.4
留学エージェントの選抜試験等	4	9.1
その他	3	6.8

[その他：「IT関連ポートフォリオの提出」「母国教育機関の成績証明書の提出」、n=44、MA3]

問7 貴校における留学生募集のための主な広報手段は何ですか。

選択肢	n	%
入学案内・パンフレット等	30	68.2
ウェブサイト	29	65.9
SNS	29	65.9
説明会・オープンキャンパス	13	29.5
留学フェア等での出展	11	25.0
海外現地オフィスの設置	6	13.6
海外現地教育機関の訪問	6	13.6
日本留学経験者（在校生・卒業生等）を介したアプローチ	4	9.1
各国在日留学生協会との連携	2	4.5
その他	2	4.5

[その他：「海外IT企業・研修機関との連携」、n=44、MA3]

問8 貴校における留学生受入れ増のための募集上の工夫は何ですか。

選択肢	n	%
日本国内の日本語学校との提携の強化・拡充	32	72.7
SNS・デジタルマーケティング等の活用	21	47.7
奨学金・学費補助制度の完備をアピール	18	40.9
留学生向け生活支援の充実をアピール	14	31.8
留学生向け就職支援の充実をアピール	12	27.3
海外現地での直接PR・説明会の開催	10	22.7
ITスキル教育と連携したPR戦略	9	20.5
企業・団体等との連携を強化した留学生誘致	8	18.2
既存留学生による紹介制度・口コミ等の強化	6	13.6
その他	2	4.5

[その他：「海外教育機関とのダブルディグリープログラムの適用」等、n=44、MA3]

問9 貴校における留学生受入れ増のための留学生支援策は何ですか。

選択肢	n	%
就職先の確保	31	70.5
アルバイト先の確保	23	52.3
公的奨学金の申請支援	22	50.0
学生寮の完備	14	31.8
自校または連携企業等の奨学金・学費減免制度の適用	12	27.3
校内の多言語対応の強化	10	22.7
特に実施していない	8	18.2
校内の留学生交流機会の充実	7	15.9
その他	3	6.8
信仰がある留学生への対応（礼拝所設置等）	2	4.5

[その他：「留学生向けIT業界特化型主食セミナーの開催」「IT日本語講座の提供」、n=44、MA3]

問10 貴校における留学生受入れに関する直近の課題は何ですか。

選択肢	n	%
学費・生活費負担の増加	29	65.9
留学生の学習意欲の低さ	20	45.5
他校との競争激化（留学生獲得の難しさ）	15	34.1
教職員の対応負担の増加	14	31.8
留学生向け就職支援の難しさ	14	31.8
日本語能力の不足	12	27.3
留学生の定着率の低さ	8	18.2
在留資格手続等の煩雑さ	8	18.2
留学生の生活・住居支援の不足	6	13.6
その他	6	13.6

[その他：「特定国の留学生ビザ発給制限の強化の影響」「文化的・宗教的相異による学生間意思疎通の問題」等、n=44、MA3]

2.3 調査② 日本語学校IT留学生進路実態調査

調査②は日本語学校IT留学生進路実態調査である。

これは、IT分野への進学・就職を希望して日本語学校に通う留学生のキャリア形成に関する意識や実態を把握することで、本事業における広報募集・教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にするためのものである。

その調査仕様・調査結果を以下に報告する。

2.3.1 調査仕様

本調査の仕様（目的・対象・手法・内容・反映方針等）は次の通りである。

名 称	日本語学校IT留学生進路実態調査
目 的	IT分野への進学・就職を希望して日本語学校に通う留学生のキャリア形成に関する意識や実態を把握することで、本事業における広報募集・教育指導活動と外国人IT人材アジア連携留学支援体制構築の基礎資料にする。
対 象	全国のIT留学生在籍日本語学校100校程度
手 法	質問紙法&ウェブ回答
項 目	日本留学希望理由・日本就職希望有無・IT職イメージ・専修学校イメージ・留学費支弁手段・日本語能力・キャリアビジョン・職業意識・留学上の不安・課題 等

2.3.2 調査内容

本調査における具体的な質問項目は次の10項である。

回答者校に在籍するIT分野志望留学生の――

- ① 在籍数 ② 主な出身地 ③ 日本語能力 ④ 主な留学理由 ⑤ 主な希望進路
- ⑥ 主なIT分野志望理由 ⑦ 主なキャリア像 ⑧ 主な進路情報収集手段 ⑨ 主な不安や課題
- ⑩ 学校の就職支援に対する満足度

これに基づいて作成した調査票を以下に掲載する。

▼【調査票】調査② 日本語学校IT留学生進路実態調査

【調査票】調査② 日本語学校IT留学生進路実態調査

問1 貴校に在籍するIT分野志望留学生（以下「IT留学生」）は何人ですか。[1つ選択]

- ☐ 10人以下 ☐ 11～20人 ☐ 21～30人 ☐ 31～50人 ☐ 51人以上
☐ 現時点でIT分野志望かどうかを把握していない

問2 貴校に在籍するIT留学生の主な出身地はどこですか。[3つ選択]

- | | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| ☐ 中国 | ☐ 韓国 | ☐ 台湾 | ☐ インド | ☐ インドネシア |
| ☐ スリランカ | ☐ タイ | ☐ ネパール | ☐ パキスタン | ☐ バングラデシュ |
| ☐ フィリピン | ☐ ベトナム | ☐ ミャンマー | ☐ モンゴル | ☐ その他 |

問3 貴校に在籍するIT留学生の日本語能力は主にどの程度ですか。[1つ選択]

- ☐ N1相当 ☐ N2相当 ☐ N3相当 ☐ N4相当 ☐ N5相当
☐ JLPT未受験であるが日常会話は可能 ☐ JLPT未受験で日常会話は困難 ☐ その他

問4 貴校に在籍するIT留学生の主な留学理由は何ですか。[3つ選択]

- ☐ 日本のIT企業に就職したいから
☐ 日本のIT分野の専門学校・大学に進学したいから
☐ 日本の技術水準が高いため最先端のITを学びたいから
☐ 日本のIT業界の就労環境が魅力的であるから
☐ 母国のIT業界で活躍するためのスキルを習得したいから
☐ 日本の在留資格制度が他国より有利であるから
☐ 奨学金や各種支援制度を利用できるから
☐ 日本語を話せば母国での就職の幅が広がるから
☐ 日本の文化や生活に関心があるから
☐ その他

問5 貴校に在籍するIT留学生の主な希望進路は何ですか。[3つ選択]

- | | |
|---|---|
| ☐ 日本のIT企業への就職 | ☐ 日本のIT分野の専門学校・大学への進学 |
| ☐ 母国のIT企業への就職 | ☐ 海外（日本・母国以外）のIT企業への就職 |
| ☐ 母国・海外の教育機関への進学 | ☐ 日本でフリーランスのIT技術者として独立 |
| ☐ 日本でIT以外の分野（通訳・観光等）での就職 | ☐ 起業して自分のITビジネスを立ち上げる |
| ☐ 具体的な進路をまだ決めていない | ☐ その他 |

問6 貴校に在籍するIT留学生がIT分野を志望する主な理由は何ですか。[3つ選択]

- ☐ IT分野は世界的に需要があって就職し易いから
☐ 給与水準が高いため高収入を得たいから
☐ 在宅勤務・リモートワークが可能な職種が多いから
☐ 母国でもITスキルが求められているから
☐ 日本のIT企業でキャリアを形成したいから
☐ プログラミングやソフトウェア開発が好き・得意であるから
☐ 日本のIT技術（AI・ロボット・ゲーム開発等）に関心があるから
☐ 独立やフリーランスとして働き易いから
☐ 友人・知人に影響されてITを志望したから
☐ その他

問7 貴校に在籍するIT留学生の主なキャリア像はいかなるものですか。[3つ選択]

- | | |
|--|---|
| ☐ 日本の企業でエンジニアとして働く | ☐ 日本の企業でAI・データサイエンス分野で働く |
| ☐ 日本のゲーム・CG・アニメ業界で働く | ☐ 日本のIT業界で経験を積んで母国に帰る |
| ☐ 日本でリモートワークやフリーランスIT技術者として働く | ☐ 海外の企業でエンジニアとして働く |
| ☐ 起業して自分のITビジネスを立ち上げる | ☐ IT以外の分野でキャリアを形成する |
| ☐ 具体的なキャリア像をまだ描いていない | ☐ その他 |

問8 貴校に在籍するIT留学生が利用する主な進路情報収集手段は何ですか。[3つ選択]

- | | |
|---|---|
| ☐ 貴校における進路指導・キャリアサポート | ☐ インターネット検索 |
| ☐ SNSまたは（YouTube等の）動画コンテンツ | ☐ 日本のIT企業の公式ウェブサイト |
| ☐ 専門のIT業界向け求人・キャリア情報ウェブサイト | ☐ 進学フェア・就職フェア等への参加 |
| ☐ 既存留学生（在校生・卒業生）からの口コミ | ☐ 留学エージェントからの情報提供 |
| ☐ 知人・家族等からの推薦 | ☐ その他 |

問9 貴校に在籍するIT留学生における主な不安や課題は何ですか。[3つ選択]

- | | |
|---|--|
| ☐ 日本語能力の不足 | ☐ IT専門知識・スキルの不足 |
| ☐ 就職活動に必要な在留資格等の問題 | ☐ 学費や生活費の負担の増加 |
| ☐ 日本の文化・社会制度（医療・保険・労務等）に馴染めるかの不安 | |
| ☐ 就職後のキャリア形成の見通しが立たない | ☐ 日本の企業の採用プロセスがわかりにくい |
| ☐ 就職後の職場環境（労働時間・待遇等）への懸念 | |
| ☐ IT以外のスキル（ビジネスマナー・コミュニケーション力等）の不足 | ☐ その他 |

問10 貴校に在籍するIT留学生の貴校就職支援に対する満足度はいかなるものですか。[2つ選択]

- | | |
|--|--|
| ☐ 非常に満足している | ☐ ある程度満足しているが改善点がある |
| ☐ あまり満足していない | ☐ 全く満足していない |
| ☐ 就職支援自体が殆どない | ☐ 就職支援の内容がIT分野向けでない |
| ☐ 進学支援は充実しているが就職支援は不足している | ☐ 留学生の満足度までは把握していない |

質問は以上です。ありがとうございました。

2.3.3 調査結果

本調査の結果は次の通りである。

問1 貴校に在籍するIT分野志望留学生（以下「IT留学生」）は何人ですか。

選択肢	n	%
10人以下	9	28.1
11～20人	8	25.0
21～30人	4	12.5
31～50人	2	6.3
50人以上	2	6.3
現時点でIT分野志望かどうかを把握していない	7	21.9

[n=32、SA]

問2 貴校に在籍するIT留学生の主な出身地はどこですか。

選択肢	n	%
中国	20	62.5
ベトナム	16	50.0
韓国	12	37.5
ネパール	10	31.3
台湾	8	25.0
インド	6	18.8
パキスタン	4	12.5
ミャンマー	4	12.5
スリランカ	3	9.4
バングラデシュ	3	9.4
その他	3	9.4
インドネシア	2	6.3
タイ	2	6.3
フィリピン	2	6.3
モンゴル	1	3.1

[その他：「カンボジア」「ブラジル」「マレーシア」、n=32、MA3]

問3 貴校に在籍するIT留学生の日本語能力は主にどの程度ですか。

選択肢	n	%
N1相当	1	3.1
N2相当	7	21.9
N3相当	10	31.3
N4相当	5	15.6
N5相当	1	3.1
JLPT未受験であるが日常会話は可能	5	15.6
JLPT未受験で日常会話は困難	2	6.3
その他	1	3.1

[その他：「CEFR B1相当」、n=32、SA]

問4 貴校に在籍するIT留学生の主な留学理由は何ですか。

選択肢	n	%
日本のIT企業に就職したいから	22	68.8
日本のIT分野の専門学校・大学に進学したいから	21	65.6
日本の文化や生活に関心があるから	13	40.6
母国のIT業界で活躍するためのスキルを習得したいから	11	34.4
日本の技術水準が高いため最先端のITを学びたいから	7	21.9
奨学金や各種支援制度を利用できるから	6	18.8
日本のIT業界の就労環境が魅力的であるから	5	15.6
日本語を話せれば母国での就職の幅が広がるから	5	15.6
日本の在留資格制度が他国より有利であるから	4	12.5
その他	2	6.3

[その他：「家族が日本にいるから」「日本の高度人材資格を取得し易いから」、n=32、MA3]

問5 貴校に在籍するIT留学生の主な希望進路は何ですか。

選択肢	n	%
日本のIT企業への就職	28	87.5
日本のIT分野の専門学校・大学への進学	21	65.6
母国のIT企業への就職	12	37.5
海外（日本・母国以外）のIT企業への就職	9	28.1
具体的な進路をまだ決めていない	9	28.1
母国・海外の教育機関への進学	6	18.8
日本でIT以外の分野（通訳・観光等）での就職	4	12.5
起業して自分のITビジネスを立ち上げる	3	9.4
日本でフリーランスのIT技術者として独立	2	6.3
その他	2	6.3

[その他：「日本で研究職に就く」「分野を決めていないが、とにかく日本で就職・生活する」、n=32、MA3]

問6 貴校に在籍するIT留学生在がIT分野を志望する主な理由は何ですか。

選択肢	n	%
給与水準が高いため高収入を得たいから	22	68.8
IT分野は世界的に需要があって就職し易いから	15	46.9
母国でもITスキルが求められているから	14	43.8
日本のIT企業でキャリアを形成したいから	12	37.5
プログラミングやソフトウェア開発が好き・得意であるから	9	28.1
在宅勤務・リモートワークが可能な職種が多いから	8	25.0
日本のIT技術（AI・ロボット・ゲーム開発等）に関心があるから	7	21.9
独立やフリーランスとして働き易いから	4	12.5
友人・知人に影響されてITを志望したから	3	9.4
その他	2	6.3

[その他：「AI研究に関心があるから」「実力だけを見て評価してくれる分野であるから」、n=32、MA3]

問7 貴校に在籍するIT留学生的の主なキャリア像はいかなるものですか。

選択肢	n	%
日本の企業でエンジニアとして働く	23	71.9
具体的なキャリア像をまだ描いていない	17	53.1
日本のゲーム・CG・アニメ業界で働く	14	43.8
日本の企業でAI・データサイエンス分野で働く	10	31.3
日本のIT業界で経験を積んで母国に帰る	9	28.1
海外の企業でエンジニアとして働く	9	28.1
日本でリモートワークやフリーランスIT技術者として働く	4	12.5
起業して自分のITビジネスを立ち上げる	4	12.5
IT以外の分野でキャリアを形成する	4	12.5
その他	2	6.3

[その他：「日本でIT分野の教育者・研究者になる」「日本のIT企業で管理職になる」、n=32、MA3]

問8 貴校に在籍するIT留学生在が利用する主な進路情報収集手段は何ですか。

選択肢	n	%
貴校における進路指導・キャリアサポート	28	87.5
インターネット検索	22	68.8
日本のIT企業の公式ウェブサイト	10	31.3
SNSまたは（YouTube等の）動画コンテンツ	8	25.0
進学フェア・就職フェア等への参加	8	25.0
専門のIT業界向け求人・キャリア情報ウェブサイト	7	21.9
留学エージェントからの情報提供	6	18.8
既存留学生（在校生・卒業生）からの口コミ	5	15.6
知人・家族等からの推薦	2	6.3
その他	0	0.0

[n=32、MA3]

問9 貴校に在籍するIT留学生における主な不安や課題は何ですか。

選択肢	n	%
学費や生活費の負担の増加	24	75.0
日本語能力の不足	14	43.8
IT専門知識・スキルの不足	12	37.5
就職後のキャリア形成の見通しが立たない	8	25.0
IT以外のスキル（ビジネスマナー・コミュニケーション力等）の不足	8	25.0
就職活動に必要な在留資格等の問題	7	21.9
日本の文化・社会制度（医療・保険・労務等）に馴染めるかの不安	7	21.9
就職後の職場環境（労働時間・待遇等）への懸念	7	21.9
日本の企業の採用プロセスがわかりにくい	6	18.8
その他	3	9.4

[その他：「職場・生活圏での外国人差別」「外国人向け住居の確保の難しさ」等、n=32、MA3]

問10 貴校に在籍するIT留学生の貴校就職支援に対する満足度はいかなるものですか。

選択肢	n	%
非常に満足している	9	28.1
ある程度満足しているが改善点がある	16	50.0
あまり満足していない	8	25.0
全く満足していない	4	12.5
就職支援自体が殆どない	2	6.3
就職支援の内容がIT分野向けでない	11	34.4
進学支援は充実しているが就職支援は不足している	6	18.8
留学生の満足度までは把握していない	8	25.0

[n=32、MA2]

2.4 調査③ オンライン教育システム事例調査

調査③はオンライン教育システム事例調査である。

これは、昨今のICT教育におけるオンライン教育システム事例の実態を把握することで、本事業（次年度）における留学生補完教育プログラム開発の基礎資料にするためのものである。

その調査仕様・調査結果を以下に報告する。

2.4.1 調査仕様

本調査の仕様（目的・対象・手法・内容・反映方針等）は次の通りである。

名 称	オンライン教育システム事例調査
目 的	昨今のICT教育におけるオンライン教育システム事例の実態を把握することで、本事業（次年度）における留学生補完教育プログラム開発の基礎資料にする。
対 象	EdTech市場等
手 法	デスクリサーチ
項 目	システム名・開発者（提供者）・価格・仕様（方式・諸機能・アカウント数・拡張性等）・特長・対応言語・課題 等

2.4.2 調査結果

本調査では、昨今のICT教育におけるオンライン教育システムの事例について、デスクリサーチを実施した。

その結果、20事例を確認した。その基本情報や仕様・特徴等を次頁以降に整理する。

▼ 事例01

名 称	カオナビ (kaonavi)
提供者	株式会社カオナビ (URL) https://www.kaonavi.jp/
価 格	50人まで：月額29800円、100人まで：月額39800円。
概 要	8年連続シェアNo.1を誇るタレントマネジメントシステム。社員の個性・才能を発掘し戦略人事を加速させることができる。人材情報の一元管理だけでなく、評価運用や配置検討、スキル管理や学習管理などの人材育成、社内申請、モチベーション管理等多岐にわたり活用できる。また、人事情報という機密性の高いデータを扱うため、高度なセキュリティ対策が施されている。一般的なファイル共有ツールと比べ、より厳格なアクセス制御や暗号化が行われている。
主な機能	▶ 社員の顔写真・スキル・評価・実績・性格・エンゲージメント情報等を一元管理。 ▶ 性格診断テスト「エニアグラム」で社員の性格チェック、円滑なコミュニケーションを促進。 ▶ オリジナル作成できる評価制度やアンケート。 ▶ ドラック＆ドロップの簡単操作で、個社に合わせた本格的なダッシュボードをカスタマイズ。 ▶ 200種類以上のテンプレートからスキル管理。 ▶ ワードランキングで社員の声を簡単に集約。
特 徴	○ 自社の人事施策に合わせて社員の人材情報を一元化。 ○ 自動で組織図を作成。 ○ 定期的なパルスサーベイの実施で、個人・所属ごとの結果や推移を蓄積。 ○ アラカルト方式で欲しい機能だけを導入しコストダウン。 ○ 所属や入社年次などのデータを元にお薦め学習コンテンツを表示。 ○ 1社に1人専任サポートを配置。
参考画像	

▼ 事例02

名 称	タレントパレット
提供者	株式会社プラスアルファ・コンサルティング (URL) https://www.pa-consul.co.jp/talentpalette/
価 格	シンプルな料金体系：初期費用+月額費用（社員数に応じて変動）。要問合せ。
概 要	99.6%の高い継続率を誇るタレントパレットは、マーケティングの考え方を取り入れた人事戦略が実行できるシステム。人事業務を効率化するだけでなく、人材データを分析・活用することで、経営・人事戦略の意思決定の高度化、次世代人材の育成、最適配置、離職防止、採用強化など科学的な人事戦略を実現する。独自の人材スコアリング・ランキング機能で、組織にとって重要な人材を特定し、エンゲージメント向上施策によって、人材の定着を促進する。
主な機能	▶ 社員の顔写真が付いたアイコンで、顔と名前を一目で把握。 ▶ 国際基準「ISO30414」に準拠した多彩な項目で人的資本を見える化。 ▶ 労務管理・手続きをオールインワンで効率化。 ▶ 自由な設問設定で、社員向けアンケートを作成や簡単操作で社員間の感謝ポイント付与。 ▶ 人材育成、スキル管理、人事評価、社員の健康状態、生活習慣、ストレスチェック、健康診断データを一元管理。 ▶ 研修やeラーニングの受講記録を蓄積して、お薦めコンテンツをレコメンド。
特 徴	○ データの可視化による人材発掘・育成、エンゲージメント、離職防止。 ○ 人事評価、労務管理、採用管理等業務の一元管理。 ○ 様々な人材データを自由に掛け合わせて分析、ドラッグ&ドロップで簡単に異動検討。 ○ 社員の精神的、身体的な健康をチェックし健康経営を促進・支援。
参考画像	

▼ 事例03

名 称	LearningWare
提供者	株式会社プロシーズ (URL) https://www.pro-seeds.com/learningware/
価 格	初期費用200000円。ユーザ数プラン：月額費用20000円～。
概 要	eラーニングから集合研修まで、学習・研修を一括管理できるeラーニングシステムで、導入企業は2800社以上、利用者は100万人以上の運用実績がある。マルチデバイス対応で、ライブ配信が可能、時間や場所を選ばず手軽に研修を受講できる。「3社以上の要望があれば実装」をテーマに、現場の声を踏まえた利用者目線での開発をモットーに「あったら良いな」が反映されやすい柔軟性がある。
主な機能	▶ ユーザ情報はCSVで一括登録・更新が可能。 ▶ プッシュ通知、未読・既読の確認、未読者への自動通知メール、アンケートの自動集計、受講促進の自動配信メール等、数多くの運用シーンを想定した連絡機能の実装。 ▶ マルチデバイス対応動画配信システム。 ▶ ログイン時、講義受講、テスト受験時の顔認証利用。 ▶ 日本語・英語の他に30以上の言語に対応。
特 徴	○ マニュアルがなくても操作方法が分かる使いやすいデザイン。 ○ 必要な機能だけをピックアップし、低コスト利用。 ○ 導入後も安心のサポート体制。 ○ 顔認証、データ連携API、決済等用途に合わせた豊富な機能。 ○ 厳選された1000レッスン以上の教材。
参考画像	選ばれる理由 解決できる課題 機能一覧 サービス 料金 活用事例・導入実績 よくある質問 導入の流れ お役立ち資料 お問い合わせ 南西学院大学様 教育を快適に、成長を劇的に LearningWare 20年以上にわたり、企業研修から、代理店・フランチャイズ研修、学校教育・研修ビジネス・オンライン講習・オンライン試験まで幅広く活用されてきたeラーニングシステムです。 導入企業 2800社以上 月間利用者数 100万人以上 1,000レッスン以上の教材配信

▼ 事例04

名 称	WisdomBase (ウィズダムベース)
提供者	株式会社シェアウィズ (URL) https://wisdombase.share-wis.com
価 格	初期費用0円。コンテンツ見放題パッケージ：月額費用1人600円。
概 要	自社で保有する知識やナレッジ、ノウハウを生かし、研修や講習用のオンライン資料の作成・受講者の進捗具合・管理・学習範囲の設定が構築できる学習管理システム。また、決済機能・認定証発行・オリジナルデザイン設定等、販売に必要な機能をも備えている。試験機能が充実していて、数千人が一斉受験できる本格的な試験を実施できる。
主な機能	▶ 6千万通りの設定項目で、数千人が一斉に受験できる本格的な試験。 ▶ 顔認証、タブ移動の禁止、パソコンのみからの受験、インカメラ監視、デスクトップの監視等、不正抑止・証拠を残す機能。 ▶ 動画や音声、PDF、テキスト等様々な形式のコンテンツ作成・掲載。 ▶ グループ分けや権限管理機能、シングルサインオン (SSO) 対応等柔軟な認証機能の充実。 ▶ 全部の動画を見ないと受講できない試験や受講が遅いユーザに自動メールの送信が可能な受講条件、自動ワークフロー機能。
特 徴	○ ユーザ管理、テストの実施・データの分析等学習に必要な豊富な機能を組み合わせて幅広いニーズに対応。 ○ 専任のカスタマーサクセス担当が手厚くサポート。 ○ ニーズにあった学習環境を直感的な操作でかんたんに構築。 ○ オリジナルのオンライン講座販売サイトの作成。
参考画像	The screenshot displays the WisdomBase website. At the top, there's a navigation bar with links for '機能' (Features), '価格' (Pricing), '導入事例' (Case Studies), and 'お知らせ' (News), along with a contact number '0120-546-070'. The main content area features the text '社内の知識を社内外に広げる オンライン学習管理システム' (Online Learning Management System to spread knowledge within and outside the company) and the WisdomBase logo. Below this, there are several circular icons illustrating various learning and management functions. At the bottom, a row of logos for partner organizations is shown, including SmartHR, Daiwa Lease, Hitotsubashi University, and others.

▼ 事例05

名 称	etudes
提供者	アルー株式会社 (URL) https://etudes.jp/
価 格	初期費用0円。月額費用27500円。(ID数によるボリュームディスカウントあり) 利用しない月は500円。
概 要	1493社以上の企業と培った人材育成研修の提供実績を基に人材育成の専門家が作った学習者と管理者の双方が使いやすいLMS。教育効果をあげるための最適な設計(インストラクショナルデザイン理論)の知見を豊富にもつ視点で、システム設計を行っている。eラーニング学習に必要な機能をetudesだけで網羅、多様な学習者や研修を想定したオリジナル教材、マニュアル無しで使える直感的なUI/UX等を展開している。
主な機能	▶ グループ会社や本社とフランチャイズ店舗といった複数組織を一元管理。 ▶ 動画は1秒単位、PDFスライドは1枚単位で履歴を確認できる緻密かつ効率的な受講管理。 ▶ 動画、テスト、アンケート、集合研修管理、提出物管理等豊富な教材形式。 ▶ 約15種類の通知メールを自動で送信。 ▶ 受講者がコースを5段階で評価するコース評価、コースの修了証を自動で発行。 ▶ マルチデバイス対応。
特 徴	○ 画像を多く取り入れた視覚的に分かりやすいデザインで、マニュアルなしの操作可能。 ○ 動画やテスト等の好きな教材を組み合わせ、オリジナルコースの作成。様々な研修スタイルに対応。 ○ 導入から運営までをまるまるサポート。
参考画像	The screenshot shows the etudes website. At the top, there's a navigation bar with the etudes logo and contact information. The main content area features a large banner with the headline '企業研修のアルーが1493社に提供した知見とノウハウ' (Insights and know-how provided by Alue to 1493 companies for corporate training). Below this, it says '初期費用0円のeラーニングシステム' (e-learning system with 0 initial cost) and 'etudes (エチュード)'. There are several bullet points listing features like '正社員・アルバイトなどの社内教育・階層別研修' (In-house training for regular employees/part-timers, tiered training), '代理店・フランチャイズ業務委託先への社外教育' (Off-site training for agents/franchisees), and '研修会社のeラーニング販売プラットフォーム' (e-learning sales platform for training companies). A '無料 資料ダウンロード' (Free material download) button is prominent. On the right side, there's a form titled 'まずは資料をダウンロード' (First, download the material) with fields for company name, position, email, and phone number, and a '送信する' (Send) button. At the bottom, there's a row of logos for various partner companies including Marubeni IT Solutions, OKAMURA, FLIP CHANNEL, Learning for All, GOKUU, ECC, and FUJIFILM.

▼ 事例06

名 称	e-learning ASP
提供者	株式会社OMS (旧名 大宮商会) (URL) https://e-learning.omiya-s.com
価 格	初期費用50000円。データ通信料課金プラン (例 ライトプラン：月額費用12000円) と受講者ID課金プラン (例 ライトプラン～100名：月額30000円)。
概 要	多彩な機能×自由なデザインでオリジナルのeラーニングを実現。コンテンツ登録は管理サイトから「動画・音声」や「PDF」などの素材データを投稿するだけ。コンテンツを見るだけでなく、テスト機能やQ&Aなど、効果測定のための様々な仕組み用意。また、不正防止のための顔認証機能、受講催促メールの通知機能まで完備。ロゴ変更はもちろん、デザインやカラーリング、ページ遷移までノーコードで変更可能。
主な機能	▶ 自動保存、途中開始、しおり機能、細かい速度調整等学習者の学習効率を最大化。 ▶ ブックマーク機能、チャプター問題の出題、動画配信、カラーマーカー、コメント入力、ズームイン・アウトのEbookの機能。 ▶ 講師への質問回答、掲示板のコミュニケーション機能。 ▶ 視聴チェック、ログイン時顔認証、受講監視機能等不正受講の防止対策。 ▶ 他のシステムで利用中のIDとパスワードを連動させる「シングルサインオン機能」や、システム内の情報を外部に取り込む「API連携機能」を採用。
特 徴	○ 利用するアカウント数とコンテンツ数に制限が一切なく、使った分だけ支払う従量課金制の採用でコスト削減。 ○ コンテンツ登録から受講者登録までを短時間で完了。 ○ 外部のシステムとスムーズに連携。
参考画像	The screenshot shows the homepage of the e-learning ASP service. At the top, there's a navigation bar with links like '機能紹介', '利用事例', '料金', '教材制作', 'よくあるご質問', and 'お問い合わせ'. Below this, there are three buttons: '低価格', '多彩な機能', and '自由なデザイン'. The main heading is '成功するeラーニングなら e-learning ASP'. Below the heading, there are two circular badges: one stating '登録アカウント数 85万アカウント' and another stating 'ITトレンド年間問い合わせランキング 1位'. At the bottom, there are two large buttons: 'まずは無料です 資料請求する' and '1ヶ月無料でお試し デモ画面を見たい'.

▼ 事例07

名 称	AirCourse
提供者	KIYOラーニング株式会社 (URL) https://aircourse.com/
価 格	無料コースと有料2コース。月額360円か600円/ID。年払いで人数により変動、200円～/ID。
概 要	低コストで、受け放題の研修と、自社作成の動画の共有機能に強み。スマートフォン撮影の動画を簡単にアップでき、研修や現場の業務を円滑に共有。研修動画の制作サービスもあり。マルチデバイス対応。無料プランがあり、小規模から試しやすいため、大企業からベンチャーまで幅広いニーズがある。
主な機能	▶ 標準コースを受け放題。 ▶ 簡単に自社コースを作成・配信。 ▶ 少ない操作でテスト作成。成績は管理者レポートで確認可能。 ▶ 学習状況や成績の管理レポート機能。未完了のユーザや成績が低い人にフォロー。 ▶ ファイルをドロップするだけでナレッジ共有できるSNS機能。 ▶ 一元管理機能。研修の出欠、リマインド、配布資料の共有、アンケート、受講履歴等。
特 徴	○ 幅広いテーマの動画研修コンテンツが受け放題。 ○ 自社作成の教材を、柔軟で簡単に作成。 ○ 充実した管理機能とユーザインターフェース。 ○ 初期費用0円、月額低コスト。
参考画像	

▼ 事例08

名 称	manebi eラーニング
提供者	株式会社manebi (URL) https://manebi.co.jp/service/e-learning/
価 格	I 初期費用10000円。会費制と従量制。月間の受講者39名まで：基本料金19800円/従量制500円。
概 要	社会人向け5000以上のコンテンツが低料金で見放題。アップロード機能があり、自社開発の教材を素早く配信したり、ノウハウを共有したりできる。トレーニングマップで社員の円滑な研修を導くと同時に、視聴履歴やテスト結果で研修成果を表し、浸透度が測定できる。月ごとにIDの有効・無効切り替えができ、有効ID数分だけ負担すればよいのでコストを圧縮できる。オンライン研修も併せて行え、自社の研修目的に合わせて柔軟に活用したい企業に人気がある。
主な機能	▶ 研修プランが簡単に作れるコースマップ機能。 ▶ 社内オリジナルコンテンツを共有できるアップロード機能。 ▶ 良質な5000コンテンツが学び放題。 ▶ 専任チームの伴走サポート。 ▶ 学習を促進するマイページ。 ▶ 外国語字幕生成、オリジナル教材作成AI。
特 徴	○ 5000コンテンツと豊富な学習管理機能。 ○ 満足度の高い直感的でシンプルな操作画面。 ○ 研修導入から実行・評価も手厚くサポート。 ○ AIによる最適な研修プランの自動提案。
参考画像	

▼ 事例09

名 称	KnowledgeC@fe
提供者	株式会社富士通ラーニングメディア (URL) https://www.knowledgewing.com/kcc/cafe/
価 格	初期設定料金176000円。年間・スポットの期間選択可能。ID数により変動。オプション有。 (例) 初期設定176000円 + eラーニング年間1650円 × 100ID = 165000円 + コンテンツ変換オプション1ライセンス13200円 × 12か月 = 158400円(税込) など。
概 要	研修事前の状況把握から、研修内容の現場活用・実践時のフォロー、実践結果の評価できる。時間のかかる教材作成も、コンテンツ変換オプション追加で、PowerPoint原稿を活用して迅速に作成。教材作成から履歴管理まで、LMS上で一括実施・管理。様々なオプションを選べば、手厚いサポートがあるので、柔軟な活用ができる。受講者もモバイルで操作も容易なため、こまめにアクセスして学習できる。
主な機能	▶ モバイル端末対応。 ▶ 見やすく使いやすい画面構成。 ▶ お互い教えあい学びあえる。ソーシャルラーニング機能の充実。 ▶ eラーニング内製化を支援。 ▶ 多言語対応。日・英・中(繁体字・簡体字)・タイ・ベトナム・インドネシア・韓国等。 ▶ 実務のしやすい権限設計。「受講者」「グループ管理者」「講師」「管理者」の4つの権限。
特 徴	○ 人材育成会社の実績を活かしてサポート。 ○ 2700以上の多彩なコンテンツ。 ○ 富士通の堅牢なセキュリティで安定したサービス。
参考画像	

▼ 事例10

名 称	Moodle
提供者	株式会社イーラーニング【JP】 (URL) https://www.e-learning.co.jp/service/moodle/
価 格	オフィシャルパートナー会社の設定による。
概 要	世界最大規模のeラーニングのプラットフォームで、日本やヨーロッパの大学で最も使用されているLMS。対面授業・実技授業・オンライン授業などに対応。学習のすべてを一元管理することで、教員の労力を削減し、高い教育効果の実現を目指している。小、中、高、政府組織、地方自治体、医療機関、学会、NPO法人など、さまざまな団体・組織への導入実績あり。
主な機能	▶ 世界標準LMS。サイト数17万以上、ユーザ数4億以上、242箇国・地域で利用。(2023年現在、Moodle HQ統計) ▶ OSS (オープンソースソフトウェア)。信頼性、安定性が高い。 ▶ クラウド型LMS。サーバやネットワークの設計・構築・維持管理(トラブル/セキュリティ対策、OS/ソフトウェアの更新、保守点検等)の必要なし。 ▶ 拡張性と柔軟性。学内システム・社内ポータルとのシームレスな連携可能。
特 徴	○ 日本で唯一のMoodle公式認定プレミアムパートナー。 ○ 日本やヨーロッパの大学でシェアNo.1のLMS。 ○ 動画をドラッグ&ドロップで簡単操作。多言語字幕対応、自動翻訳機能付。 ○ PowerPointをコンテンツとして使用。受講者はページをめくる感覚で学習可能。 ○ 高い技術と専門知識でネットワーク、サーバからコンテンツ作成までワンストップで支援。
参考画像	

▼ 事例11

名 称	Schoo Swing
提供者	株式会社Schoo (URL) https://dx.schoo.jp/
価 格	各々の導入プランによる。
概 要	データの活用によって学びを可視化することで、教育の最適化を実現できる次世代型の学習プラットフォーム。「世の中から卒業をなくす」をミッションに、インターネットでの学びや教育を起点とした社会変革を進めている。2014年から約20の大学・教育機関のDX化を支援。2021年9月には高等教育機関DXプラットフォーム『Schoo Swing』提供開始。「ハイブリッド教育」の課題解決に向けて、要因分析・戦略策定から、ソフトウェアや人的サポートを含むソリューションまでを一気通貫で支援。教材の準備・作成、講義配信（オンデマンド授業動画の収録・編集）、講義データの集計・活用の推進、評価の設計など。教学マネジメントの改革・運用スコープに沿い、保有データを掛け合わせたデータ活用をサポート。指標設計や独自ダッシュボードの構築にも対応。
主な機能	▶ ライブとオンデマンド、2種類の授業配信。 ▶ 8500本以上のオリジナル授業動画視聴。視聴データの取得も可能。 ▶ 学習データをリアルタイムで可視化・数値化。教育・学習データ分析、アクセスログ解析。 ▶ 充実したLMS機能。クラス管理、課題提出・テスト、出席判定、アンケート。
特 徴	○ ハイブリッド教育への対応。授業特性に合わせたオンライン・オフラインの学習体験の組合せを一つのツールで実現。ハイフレックス型、オンデマンド型、ブレンド型（対面・オンラインの組合せ）、BYODの対面型授業など、あらゆる授業形態に対応可能。 ○ 双方向の学びを促進。コメント、リアクション、クイズなどの機能により、学生の授業参加のハードルを下げ、より活発なコミュニケーションを実現。 ○ データ活用で授業の質を向上。動画視聴、出席、課題提出、テスト結果など様々な学修ログを学生毎に取得。ログはダッシュボードで可視化し、データに基づいて教育活動を検証・分析。
参考画像	 The screenshot shows the Schoo Swing website interface. At the top, there's a navigation bar with links like 'トップ' (Top), '機能一覧' (Feature List), '配信機能' (Distribution Function), and 'データ活用機能' (Data Utilization Function). Below the navigation bar, there are statistics: '8,500' (number of courses), '35大学' (35 universities), and '近畿大学' (Kansai University). The main heading is 'Schoo Swing スクースウィング'. Below that, it says '学修者本位の学びを当たり前。' (Learning centered on the learner, making it a natural part of learning). A subtext explains that Schoo Swing is a platform that realizes the optimal education of the next generation by utilizing data to visualize learning. At the bottom, there are buttons for '資料ダウンロード' (Download Materials) and '問い合わせ' (Contact Us). The background image shows a young woman sitting at a desk, looking at a laptop screen that displays a dashboard with various charts and graphs.

▼ 事例12

名 称	ひかりクラウド スマートスタディ
提供者	東日本電信電話株式会社 (URL) https://l-cloud.jp/
価 格	初期費用5500円／契約＋ライブ5500円／契約＋コンテンツ言語変換0円。 月額利用料 基本利用料198円／ID（受講者1名あたり1ID）～。 この他、オプション利用料、インターネット接続サービス利用料、プロバイダサービス 月額利用料など加算。
概 要	初期費用を抑え受講者1名から始められる。電話サポートは9時～21時まで対応。管理者の運用にかかる負担も軽減。利用者やコンテンツの登録、学習履歴や進捗状況の閲覧など管理ページで簡単に運用が可能。コンテンツ言語変換（オプション機能）では、管理画面で事前に言語コンテンツとして設定することで、受講者画面の言語選択に合わせてドキュメントを出し分け表示。コンテンツを管理画面にて管理者の指定した言語に自動的に翻訳。8言語に対応している。
主な機能	▶ マルチデバイス対応。 ▶ 独自ビューワーで資料をセキュアに配信。 ▶ 倍速再生・途中再生ができる映像教材を配信。 ▶ 自動正誤判定ではカバーできない自動記述のレポートの回答を人の手で添削。 ▶ 全48通りの問題形式・解答形式テンプレートが使える自動正誤判定対応のドリル問題配信。
特 徴	○ ストレスチェック制度による、ストレスチェック診断可能。 ○ IDは受講者1名から払い出し、クラウド型なのでサーバの設置や専用端末は不要。 ○ ライブ（オプション機能）では、片方向最大200名、双方向最大100名が同時接続可能。
参考画像	

▼ 事例13

名 称	KnowledgeDeliver
提供者	株式会社デジタル・ナレッジ (URL) https://www.digital-knowledge.co.jp/product/kd/
価 格	550000円（税込）/100ユーザ、AMSオプション275000円（税込）/100ユーザなど。 年間保守 ライセンス費用の15%。
概 要	ツールを1つに集約し、学習管理システムに必要な「教材作成」「学習」「運用管理」の3大機能を標準搭載。教育ビジネス、大学・専門学校、企業内研修など、オンラインにおける教育提供の幅広いニーズに応える。Web会議ツールとの連携、オープンバッジ発行など新しい時代のオンライン教育に対応。Web会議ツールによるライブ授業やオンラインセミナーに別途つなぐ必要がなく、LMS上でシームレスに学習ができると共に、学習履歴も一元管理。多機能で、学習者の意欲を高めるための細やかな設定ができる。
主な機能	▶ 手軽にわかりやすい教材作成。手持ちのPowerPointやPDF資料も使用可能。 ▶ ○×式、選択式、記述式など選択でき、CSVを利用した一括登録複数問からランダムに出題できるテスト問題や解説の作成。 ▶ 好きな順番に並べ替え、章・単元ごとに振り分けるや教科設計、定められた日時に学習開始、前章の修了者だけ次章に進める前提条件設定。 ▶ 多彩な教材、マイページ確認、講座検索、修了証の表示等分かりやすい操作での学習支援。 ▶ 指導が必要なイベントを表示、アンケート集計・回答等使いやすさと多機能性を兼ね備えた運用管理。
特 徴	○ eラーニングに必須の「教材作成」「学習」「運用管理」機能を標準搭載。 ○ マルチデバイス対応。 ○ 言語対応、偽造困難な次世代の学習証明の発行等のオプション多彩。 ○ ニーズやトレンドに合わせた新機能追加、最新クライアント環境に対応するため年4回のバージョンアップ。 ○ 要望にあわせ柔軟にカスタマイズ可能。 ○ ASP・オンプレミス・DKクラウド・パブリッククラウド等数十万向けの大規模運用にも対応。
参考画像	

▼ 事例14

名 称	Multiverse® (マルチバース)
提供者	株式会社ネットラーニング (URL) https://www.netlearning.co.jp/platform/index.html
価 格	—
概 要	eラーニング教材の作成・配信・運用管理を中心とした個別学習にとどまらず、ネットライブによる集合教育、SNSによる協働学習など幅広いサービスを提供。多様に広がる学びのスタイルをダイナミックに組み合わせて活用することにより、ネットならではの新しい学習体験を追求している。学習管理や学習履歴からの分析がしやすい。日・英・中の多言語対応。
主な機能	▶ 手持ちのPowerPointやExcelなどの資料で本格的なeラーニングコースを手軽に作成。 ▶ 告知、申し込み、アンケート実施、出欠、研修結果を一元管理。 ▶ オンラインとオンデマンド配信。 ▶ カリキュラム単位で複数開催日の申込管理、担当者による申込承認、修了判定（自動判定有）。 ▶ 学習者管理、階層管理、進捗成績管理、メール送信などの学習管理。 ▶ オフィスや特定の場所からのみアクセス可能なIPアドレス制限。 ▶ SNS機能。
特 徴	○ 受講管理に必要な学習データを集約し、学習効果を細かく分析。 ○ 自動申込・決済機能、ライブラリ機能、組織診断ツール、オートログイン機能など、様々な学習サービス。 ○ 顔認証による受講確認。 ○ デジタル証明証「オープンバッジ」の発行、取得。
参考画像	 あらゆるニーズにこたえる次世代のLMS 多機能ラーニングプラットフォーム (Multiverse®) 人材育成におけるさまざまな課題を解決するMultiverse (マルチバース) は、多彩な機能を搭載しています。 オンライン上で研修の実施や、学習履歴管理を行うためのLMSは、現在ではその機能を大きく増やし、コンテンツの内部、配信はもとより、ライブでの講義配信や出欠管理まで行えます。また、多言語にも対応し、幅広い利用者へサービスを提供しています。 さらにMultiverseなら、スキルや学習歴の認定と可視化、スキルベースによる人材の戦略的かつ効果的な配属を適した人材活用に至るまで、HRM (ヒューマンリソースマネジメント) プラットフォームの役割も担うことができます。 LMSをお探しのご担当者様はもちろん、教育、研修など人材育成を進める方まで幅広いニーズに対応したプラットフォームです。

▼ 事例15

名 称	Smart Boarding
提供者	株式会社FCEトレーニング・カンパニー (URL) https://www.smartboarding.net/
価 格	301D (32400円)。1080円/11D (サポート代込)。ボリュームディスカウントあり。
概 要	ビジネス現場で「できる」(＝成果を出す) レベルになるまで、インプットだけではなく、4つの手法のオンライントレーニングでアウトプットを繰り返すことにこだわっている。オンラインのよさを“あえて”無視した少人数制が特徴。プロコーチが中心で進める「ロールプレイング型オンライントレーニング(研修)」がウリ。学習効果を高めるため、隙間時間を活用する動画の短さや、習熟度の確認、サポートに力を入れる。
主な機能	▶ LMS (Learning Management System) 機能で、個々人の学習状況を把握。 ▶ オリジナルテストの作成。 ▶ 自社で保有している動画とSmartBoardingに内包されている動画をミックスさせたハイブリッドな研修コースを簡単作成。 ▶ マニュアル不要、簡単な操作でコースを作成し、研修プログラムをカスタマイズできる。
特 徴	○ サポート代込の料金設定。導入後にオンラインスタートアップミーティング、2箇月ごとのヒアリング電話、メルマガ配信がある。 ○ プロが考えた階層別×課題別研修がすぐに使える。 ○ アウトプットに特化したオンラインでの4つの学習体系を設定。専任トレーナーがついたディスカッション、レッスン、講座、他社の受講生とも交流する実践トレーニングで構成。 ○ マニュアル不要、簡便な操作でコース作成し、研修プログラムをカスタマイズできる。
参考画像	 The screenshot shows the Smart Boarding website. At the top, there's a navigation bar with links like 'お問合せ', 'サービス', 'コンテンツ', '料金', '導入事例', '活用シーン', 'サポート', and 'パートナー制度'. Below this, a large banner reads '1000社に使われ続けるオンライン社員研修 社員教育はもう失敗しない'. A central '資料ダウンロードフォーム' (Form for downloading materials) is visible, with fields for '会社名' (Company Name), 'ご担当者名' (Responsible Person), 'メールアドレス' (Email Address), and '電話番号' (Phone Number). To the right, there are several smaller images and text blocks showcasing different training modules and testimonials, including one for 'FOT' (Future Orientation Training).

▼ 事例16

名 称	Learn0 ラーノ
提供者	Magic株式会社 (URL) https://learno.jp/
価 格	50人まで 月4900円～。
概 要	年間4回以上の大規模バージョンアップ、1箇月に数回の小規模改善を継続的に行なっていることを最大の強みとしている。コンテンツの提供はしていないが、オリジナルの教材や動画の取り込みや共有の効率化が低料金で実現できる。テストやアンケート作成、集計が簡便にでき、動画の視聴状況や学習の進捗も把握もできる。
主な機能	▶ マルチデバイス対応。 ▶ 受講者をグループ管理。 ▶ CSVでの一括登録・削除・変更、ログデータ取得。 ▶ 受講者へのメール配信。 ▶ 英語切り替え可能。 ▶ 修了証の発行。
特 徴	○ テストの種類が豊富。 ○ 二段階認証。 ○ コミュニケーション機能。 ○ アンケートの集計。
参考画像	The screenshot shows the Learn0 website with a header navigation bar. The main content area features a large banner with the text: '月額 4,900円から' (Monthly from 4,900 yen), '最短1か月からできる! 初期費用0円' (Can be started in as little as 1 month! Initial fee 0 yen), and '3,800社、月間60万人が利用する eラーニングシステム' (e-learning system used by 3,800 companies and 600,000 people per month). Below the banner are buttons for '資料請求・無料トライアル' (Request materials / Free trial) and 'デモ画面を体験する' (Experience demo screen). At the bottom, there is a section titled '3,800社、月間60万人以上にご利用いただいています' (Used by 3,800 companies and 600,000+ people per month) followed by a grid of partner logos including MUFG, セブン銀行 (Seven Bank), KIRIN, NIKKEI, Audi Japan Sales, Volkswagen Japan Sales, 日本証券金融株式会社 (Nippon Securities Finance Co., Ltd.), 株式会社セブンCSカードサービス (Seven CS Card Service Co., Ltd.), NIPPON, ORBIS, mediba, N高等学校 (N High School), 日本経済大学 (Nippon Keizai University), 全日本病院協会 (All Japan Hospital Association), and 日本医療法人協会 (Japan Medical Association).

▼ 事例17

名 称	サイバックスUniv.
提供者	(開発) サイバックス株式会社 (提供) リスクモンスター株式会社 (URL) https://www.cybaxuniv.jp/
価 格	会費制と従量制 (入会金12000円、1名から月1000円～)。 会費制は入会金50000円、年契約で月60000円/～100名。人数により変動。
概 要	オンラインで、個々のペースで学習するeラーニングと、プロ講師から実践的な講義でノウハウを学ぶ公開研修を自由に組み合わせて学習する。公開研修では、講師の講義を聞きながら、個人ワークやケーススタディで学習する「セミナースタイル」と、講師と受講者でコミュニケーションして学習する「ゼミスタイル」がある。「セミナースタイル」ではオンデマンド配信あり。
主な機能	▶ ASP型の受講管理システム「社員研修ポータル」。 ▶ テスト問題・アンケート・レポートの作成、実施。独自の講座を組み合わせで設定する「独自講座設定」で進捗管理できる。コース別、個人別、フォルダ別で進捗管理や過去実績の確認。
特 徴	○ 会費制の中に、eラーニング、公開研修、与信管理セミナー、社員研修ポータル、オリジナルeラーニング搭載機能(5GB)、自社ロゴ設定サービスが含まれる。 ○ 階層別・全社員向けに5000コースがあり見放題。研修ラインナップ・研修スタイル・多様な機能で効率的に知識が身につく。 ○ 研修講師派遣、内定者フォロー、派遣スタッフ向け研修などさまざまなコースを設定。
参考画像	

▼ 事例18

名 称	Seculio
提供者	LRM株式会社 (URL) https://www.lrm.jp/seculio/
価 格	初期費用10万円、年額費用72000円～。プランやユーザ数により変動。
概 要	情報セキュリティ教育をしながら、業務委託先や認証運用情報などを安全に一括管理できる。eラーニング、標的型攻撃メール訓練、セキュリティウェアネス(β)、社内アンケート、ニュース、PDCAサイクル(β)、スケジュール管理、インシデント管理、リスクマネジメント、ルールブック、情報資産、管理台帳、内部監査、法令管理、ソフトウェア管理、安否確認、サプライチェーンセキュリティなどさまざまな機能を設定している。
主な機能	▶ eラーニング。標的型攻撃メール訓練。セキュリティウェアネス。社内アンケートなど。 ▶ 認証運用支援。 ▶ セキュリティ可視化。
特 徴	○ 情報セキュリティに対する意識、標的型攻撃メール訓練での意識向上に加え、従業員に情報セキュリティ教育を実施する上で役立つ機能。 ○ ISMSなどの認証取得・運用をする際「いつ」「どのタイミングで」「何を実施するか」が一目でわかり、実施時に必要な情報を一元管理できる機能。認証運用支援機能を使うことで、計画的な認証の運用可能。 ○ 従業員のセキュリティ意識状況や、社内のセキュリティチェック情報などをもとに、情報セキュリティリスクを可視化する機能。可視化したリスクから、とるべき対策も併せて確認。
参考画像	 The image is a promotional banner for Seculio. On the left, it says 'セキュリティ教育をかんたんに。' (Make security education easy.) and 'セキュリオなら、eラーニング教材90種類以上！' (With Seculio, over 90 types of e-learning materials!). Below this are buttons for '無料トライアル' (Free trial) and '資料請求' (Request materials). On the right, there's a graphic of a laptop displaying a dashboard with various charts and graphs. A speech bubble next to the laptop says '導入実績 1,800社 突破' (Breakthrough in implementation with 1,800 companies). The dashboard shows metrics like '90.1%', '88.2%', '95%', '79.8%', and '90.1%'. There's also a bar chart showing '29', '41', and '18'.

▼ 事例19

名 称	Learning Tracker
提供者	関西ビジネスインフォメーション株式会社 (URL) https://www.i-netschool.com/system/index.html
価 格	—
概 要	Learning Trackerは柔軟な運用を実現し、拡張性に優れた「次世代型eラーニングシステム」を謳う。コンパクトに設計してあるため、利用目的に応じて、こまやかにカスタマイズできることが魅力。利用料金は毎月かかるが、データベース等の構築費用、Learning Trackerのメンテナンス費用は不要。利用期間により、「継続利用」(1年以上)と「スポット利用」(1年未満)の2種類。
主な機能	▶ ユーザ管理 ▶ 所属管理 ▶ 講座管理 ▶ 教材管理 ▶ クラス管理 ▶ 部門管理 ▶ 成績管理 ▶ お知らせ管理
特 徴	○ マルチデバイス対応。 ○ 講座間や学習区分間の順序設定や、テスト再受験時のインターバル設定など、きめこまやかな学習ナビゲーション機能。 ○ 学習やテスト・アンケートだけでなく、レポート提出やその採点管理が可能。 ○ SCORM形式の教材作成ソフトの制限を受けないため、多彩なテストの出題形式や採点方法が可能。 ○ eラーニングの他、適性検査やスキル診断など各種アセスメントツールとしても利用できる。 ○ eラーニング+SNSコミュニティ機能の活用で学習・教育効果の向上。 ○ 記名式に加えて、無記名式のアンケートを簡便に実施。
参考画像	

▼ 事例20

名 称	Platon
提供者	ロゴスウェア株式会社 (URL) https://platon.logosware.com/
価 格	クラウド型 従量課金制 月額16100円～、額定額制 月額 32200円～。 インストール型 一括払い(買い切り) 問い合わせ。
概 要	管理者と受講者の満足の両立を目指し、使いやすく、他システムとの連結などの柔軟性、低価格を理想に開発。35講座(189教材)あり、SUITE付プランなら、編集可能なパワーポイント原稿も利用できる。API、シングルサインオン、多言語に対応しており、拡張性が高い。「社員教育」「派遣教育」「ユーザ教育」、「教育ビジネス」の市場に強みがある。
主な機能	▶ マルチデバイス対応。 ▶ 講座単位、教材単位で分かりやすい進捗管理。 ▶ プレゼン型、ブック型、クイズ・テストといったバリエーションに富んだ教材コンテンツ。 ▶ 受講者の登録、部署の階層設定、コミュニティ機能による受講者管理。 ▶ 受講順番を指定するシーケンス機能、人と講座の柔軟な組み合わせ、申し込み形式ができる教材・講座の管理。
特 徴	○ 教材の準備、作成が簡単。 ○ 用途に合わせた料金プランでコストパフォーマンスよく利用できる。 ○ 外部拡張用API、シングルサインオン対応、外部システムとの連結ができる。 ○ 受講者画面、管理者画面、教材コンテンツ共に外国語対応。 ○ 受講者の選択型研修ができる。 ○ 10万人規模でも安定稼働。
参考画像	The screenshot shows the Platon website with a dark header and a light main content area. The header includes the Platon logo and navigation links. The main content area features a large central text block with the Platon logo and a list of features. To the right, there are three boxes highlighting 'Low Price', 'Free Materials', and 'Flexibility'. At the bottom, there is a banner for a new feature release.

第3章

開発報告

3.1 開発概要

本事業は、コロナ禍で停滞した留学生受入れの回復が期待される専修学校におけるアジアIT留学生受入れの新たな戦略モデルを構築するものである。

したがって、そこで展開する広報募集の活動は、IT留学生の日本への誘致促進に焦点を当てるもので、日本のIT専修学校で学びたいと考える中国・韓国・ベトナムの学生を主対象にする。

そして、その手法は、ポストコロナ時代のデジタルシフトを踏まえ、全てインターネット上で実現されるものにする。具体的には、ウェブサイト・SNSでの情報発信とオンラインオープンキャンパスでの交流・啓発である。

さらに、その内容は全般的に、日本の魅力や日本で学ぶことの意義を理解させることを通じて日本への留学・就職を促す啓発的アプローチによるものにする。具体的には、専修学校が日本社会を支える重要な人材を送り出す教育機関であり、卒業生は職場の専門スキル修得者として期待されることを明記することで、彼らが学びの中で就職を意識できるような内容にする。

以上の方針に基づき、本事業では本年度（令和6年度）、広報募集の次の3活動に取り組む。

ウェブサイト・SNSでの情報発信

ウェブサイトは、日本の魅力、日本での学習・生活・就職、専修学校・日本語学校、IT職のキャリアパス、各種制度等を網羅的に解説する媒体にする。また、イベントや行政動向の最新情報の他、個別の学校に関する紹介情報も掲載する。

従来の日本留学ガイド類が就職等のゴールを漠然と列挙的に示して留学を促すだけであったのに対し、本ウェブサイトの内容は、日本の魅力や日本で学ぶ意義の理解を通じて日本留学・就職に繋げることを企図する啓発的アプローチをとることに新規性がある。“出稼ぎ留学生”の増加が問題視される中、その国の魅力や学習意義を理解して目的意識を持った留学生を誘致することこそ、優秀な人材の確保という点でも有意義である。

そして、ウェブサイトと連動する形で、SNSを運用する。よりダイレクトかつカジュアルに留学候補者にリーチすることで、ウェブサイト閲覧とオンラインオープンキャンパス参加を促す。

いづれも、日英中韓越の5箇国語に対応する。

オンラインオープンキャンパスでの交流・啓発

オンラインオープンキャンパスは、従来のオンサイト（来校型）オープンキャンパスに対し、自国（自宅）において移動の制約がなく気軽に、進学希望先の学校説明会・留学相談会等に参加できるものである。これは留学生募集にこそ有用な手法である。コロナ禍の影響で来校型オープンキャンパスを縮小・中止せざるを得ない教育機関が多かった中、国内でオンラインオープンキャンパスを逸早く取り入れたのが専修学校で、その開催実績には一日の長がある。

その際、本事業で企画・催行するオンラインオープンキャンパスは、目的意識のある参加者の確保をより確実にするべく、現地の大学・日本語学校等との提携によって対象者を予め囲い込み、そこに参加を促す仕方を主な募集手法にする（ウェブ広報等での一般募集も併用するが）。

広告効果をあまり期待できない状況や学校こそ、かような組織的な募集の取組が必要である。

CBT・オンラインミーティングでの選抜試験・入学前教育

専修学校が企業等に送り出すIT留学生の質保証は極めて重要である。そのためにも、本事業で構築する支援体制では、留学生の選抜を実施する。

考査対象は日本語能力・基本リテラシー・目的意識等を想定する。その上で、在学中の資質担保として、短期の入学前教育も企画する。

その際、これらの試験や教育は、主にCBTやオンラインミーティング等によって行う。それにより、留学生の選抜や能力底上げの効率化を図る。

以上の3活動において、本年度（令和6年度）事業では開発案件として次の5件に取り組む。

開発01 日本IT留学ウェブサイト制作

IT専修学校への留学を促すPRウェブサイト（日英韓越語対応）

開発02 日本IT留学SNS設定・運用

IT専修学校への留学を促すFacebookページ等の運用（日英韓越語対応）

開発03 日本IT留学リーフレット制作

日本IT留学ウェブサイトの要約版小冊子の制作（日英韓越語対応）

開発04 日本IT留学選抜試験作成

IT留学生教育への導入としての選抜試験（3科目）

開発05 オンライン教育システム仕様策定

次年度に取り組むIT留学生教育プログラム開発の準備作業

3.2 日本IT留学ウェブサイト

日本IT留学ウェブサイトは、日本の魅力、日本での学習・生活・就職、専修学校・日本語学校、IT職のキャリアパス、各種制度等を網羅的に解説する媒体である。また、イベントや行政動向の最新情報の他、今後は個別の学校に関する紹介情報も掲載する。

従来の日本留学ガイド類が就職等のゴールを漠然と列挙的に示して留学を促すだけであったのに対し、本ウェブサイトでは、日本の魅力や日本で学ぶ意義の理解を通じて日本留学・就職に繋げることを企図する啓発的アプローチをとる。“出稼ぎ留学生”の増加が問題視される中、その国の魅力や学習意義を理解して目的意識を持った留学生を誘致することこそ、優秀な人材の確保という点でも有意義である。

本ウェブサイトの基本仕様は次の通りである。

【サイト名】日本IT専門人材留学ウェブサイト (ITSJ: IT Study in Japan)

【U R L】<https://denshi-mext.jp/itsj/>

【対応言語】日本語・英語・韓国語・ベトナム語

▼ ロゴマーク&ロゴタイプ デザイン



「留学」「人材養成」のキーコンセプトから「人」イメージを抽出し、それをメッセージコミュニケーション等で多用されるフェイスマーク風に仕立てたものをロゴマークに適用。その上で、本ウェブサイトの英略称「ITSJ」(IT Study in Japan)の英字をフェイスマークの目鼻口にあしらひ。それをアクセント色である緑のグラデーションで表現することで、デジタルな軽やかさを示唆。ロゴタイプは、サイト名自体が重い印象であるため、ゲーム風の軽快かつシャープなフォントで表現。全体的に真面目さと親しみ易さを並立させ、グローバルな繋がりをイメージしたロゴマーク&ロゴタイプのデザイン。

▼ キャラクター デザイン&設定



「留学」「人材養成」のキーコンセプトから「人」イメージを抽出し、それをメッセージコミュニケーション等で多用されるフェイスマーク風に仕立てたものをロゴマークに適用。その上で、本ウェブサイトの英略称「ITSJ」(IT Study in Japan)の英字をフェイスマークの目鼻口にあしらい、それをアクセント色である緑のグラデーションで表現することで、デジタルな軽やかさを示唆。ロゴタイプは、サイト名自体が重い印象であるため、ゲーム風の軽快かつシャープなフォントで表現。全体的に真面目さと親しみ易さを並立させ、グローバルな繋がりをイメージしたロゴマーク&ロゴタイプのデザイン。

以上の各種設定の上で、本ウェブサイトの**内容構成**および**画面表示例**を以下に示す。

▼ ウェブサイト内容構成

メニュー		内 容
0 TOP	メッセージ トピックス リーフレットDL OOC案内	日本で学ぶ魅力を伝えるイントロダクションのメッセージ 日本のIT産業の最新動向や留学生向けニュース、行政施策の紹介 等 リーフレットPDFの提供 オンラインオープンキャンパス開催告知、Q&Aセッションのリンク 等
1 日本のIT産業	日本のIT市場の現状 日本のIT企業TOP40 IT職種解説 IT業界の将来展望	日本のIT産業の規模やグローバル展開状況、主要な技術トレンド 等 大手企業からスタートアップまで、学生が将来に目指せる就職先の紹介 等 エンジニア・データサイエンティスト・ITプロマネ等、具体的な職種と役割・スキル要件等の解説 AI・IoT・クラウドコンピューティング等の未来技術に関する予測や動向 等
2 日本で働く	日本就職ガイダンス 日本の企業文化と労働環境 インターンシップ情報 卒業生のキャリアパス	留学生が日本で働くための手順・ビザ情報・採用プロセス等の解説 日本企業の文化や労働時間・休暇制度・福利厚生等の解説 学生がインターンシップを通じて実際の仕事を体験できる機会の紹介 等 日本で活躍する卒業生のストーリーを通じ、学びからキャリアに繋がる具体的なモデルを提示
3 日本で学ぶ	専修学校のメリット 主要なIT専修学校 奨学金・補助金制度 学習の流れ	専修学校が提供する実務的なカリキュラムと就職への連携 地域別・分野別の学校紹介と、各校の特徴やカリキュラム、入試情報等を掲載 留学生向け奨学金や支援プログラム等の紹介 日本語学習からIT専門学習までのプロセスを解説
4 日本で暮す	生活費・家賃ガイダンス 生活に必要な手続き 日常生活サポート情報 文化体験・地域イベント	日本の都市部や地方での生活費・家賃相場、留学生向けの住宅情報等を掲載 銀行口座開設・保険加入・住民登録等の手続きに関する解説と情報提供 病院・公共交通や日常の買物情報等、生活に必要な情報の提供 留学生が日本文化を体験できるイベントやボランティア活動等の紹介
5 日本語を使う	日本語学習サポート 日本語能力試験 (JLPT) 実践的な日本語スキル 日本語学校リスト	留学生向け日本語教材やオンラインリソース等の紹介 JLPTの概要やレベル別学習ガイド、受験スケジュール等の解説 職場や日常生活に必要な日本語の具体的な表現や用法、ビジネス日本語 (基礎) 等の解説 留学生向けの日本語学校やコース内容等の紹介
6 各種情報	ビザと滞在許可情報 法的サポートとサポート機関 FAQ (よくある質問) 問合せ先	学生ビザ・就労ビザの手続きと申請方法の詳細 留学生の権利や法的サポートを提供する機関等の紹介 学生から寄せられる質問への回答の整理・編集 学校や関連機関への問合せフォーム、サポートデスクの案内

▼ ウェブサイト画面表示例



日本IT専門人材
留学ウェブサイト
IT Study in Japan

Language



A Promise of a Bright Future for Every Student.

IT Study in Japan



日本は、AI・IoT・ロボット工学・電子工学等の先端技術が急速に発展する一方で、和食・寺社や武道・芸能等の豊かな伝統文化が息づく国です。また、マンガ・アニメやゲーム等のJAPANコンテンツでも世界を牽引しています。この独自の魅力から、多くの人々が日本に集い、革新と伝統が融合する環境で各々の未来を築いています。

日本の学校や企業では、留学生に充実した学びとインターンシップの機会を多く提供しているため、専門知識や実務スキルと共に多文化の視点を習得することが可能です。

また、日本での生活により、趣深い衣食住や伝





日本のIT市場の現状



ホーム > 日本のIT産業 > 日本のIT市場の現状

日本の市場規模



ITのトレンド



グローバル展開



ITはコンピュータやデータ通信に関する情報技術を指します。
IT業界は主に4つの分類で分けられています。



Webサービス



SaaS(情報処理)



パッケージ/プラットフォーム



ハードウェア

日本の市場規模

2022年の日本のICT産業(情報通信産業)のGDPは54.7兆円で、前年比較で1.5%増加と増加傾向にあります。
日本のIT産業として、主に以下の技術が挙げられます。

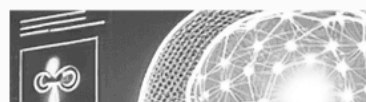
■ ロボット産業



■ 自動車産業



■ AI(人工知能)



3.3 日本IT留学SNS

日本IT留学SNSは、ウェブサイトと連動する形で運用し、よりダイレクトかつカジュアルに留学候補者にリーチすることで、ウェブサイト閲覧とオンラインオープンキャンパス参加を促すメディアである。

このメディアには、日本だけでなく韓国・ベトナムでのSNS利用状況を考慮した上で、Facebookページを採用・設定することにした。

本SNSの基本仕様は次の通りである。

【サイト名】日本IT専門人材留学Facebookページ（ITSJ: IT Study in Japan）

【U R L】<https://www.facebook.com/itstudyjnjapan/>

【対応言語】日本語・英語・韓国語・ベトナム語

本SNSでは、本事業における各種の告知や活動の様子を投稿する他、日本だけでなく各国（韓国・ベトナム）の文化・社会や教育事情等についても紹介する。これにより、現地の留学希望者が日本の魅力を知って日本に関心を持ってもらえるように促すことで、ウェブサイト閲覧やオンラインオープンキャンパス参加に繋げる。また、次年度（令和7年度）以降、企業等からの投稿も加えることで、日本の企業やIT産業を知ってもらい、日本への就職の意欲を喚起する。

以上の方針に基づいて設定・運用された本SNSの画面表示例を次頁以降に示す。

▼ SNS (Facebookページ) 画面表示例

ITSJ

「いいね!」 0件・フォロワー3人

メッセージ いいね! 検索

投稿 基本データ メンション レビュー フォロワー 写真 その他

ITSJのページに切り替えて管理を開始できます。

切り替える

自己紹介

ページ・専門学校・大学・教育関連サイト
 東京都
 03-3369-1995
 denshi.mext@jec.ac.jp
 denshi-mext.jp/itsj
 ウェブサイトを宣伝

まだ評価はありません(レビュー0件)

注目のコンテンツ

ITSJ
 1月9日 20:06

ご来訪ありがとうございます。
 今後、日本・韓国・ベトナムの各国から、日本への就職・留学や現地動向等に関する様々な情報をお届けします。
 併せて、日本留学を志望・検討する多くの学生さんとの交流も図りたいと思います。

방문해 주셔서 감사합니다.
 앞으로 일본・한국・베트남 각국에서 일본 취업・유학・일본 현지 등항 등 다양한 정보를 전해드리겠습니다.
 아울러 일본 유학을 지망하거나 검토하는 많은 학생들과의 교류도 도모하고 싶습니다.
 ...

投稿

ITSJ 2日

Sự kiện ngày 22/12/2024 đã diễn ra thành công và nhận được sự quan tâm đông đảo từ mọi người.
 BTC xin gửi lời cảm ơn chân thành đến tất cả các bạn đã tham gia và góp

写真

すべての写真を見る

写真

すべての写真を見る



プライバシー・利用規約・広告・Ad Choices・Cookie・その他・
Meta © 2025



ITSJ

2日 · 🌐

...

📅 Sự kiện ngày 22/12/2024 đã diễn ra thành công và nhận được sự quan tâm đông đảo từ mọi người. BTC xin gửi lời cảm ơn chân thành đến tất cả các bạn đã tham gia và góp phần tạo nên một sự kiện ý nghĩa. Chúng tôi hy vọng sẽ có cơ hội tổ chức thêm nhiều sự kiện ý nghĩa trong tương lai, mang đến những thông tin hữu ích và thiết thực cho các bạn!

📖 Dưới đây là bài viết của Báo Dân Trí về sự kiện của chúng tôi! 🌐
<https://dantri.com.vn/.../co-hoi-phat-trien-su-nghiep-it.....> さらに表示



DANTRI.COM.VN

Cơ hội phát triển sự nghiệp IT tại Nhật Bản

(Dân trí) - Sự kiện Open Campus "Thúc đẩy đào tạo và thu hút nhân lực I...

📢 この投稿を宣伝して、ITSJのリーチを増やそう。

投稿を宣伝

👤 Nguyen Thi Van Khanh、他1人



いいね!



コメントする



送信



シェア



Gram HKとしてコメント



🚩 Gram HKとしてコメントしています。



ITSJ

2日 · 🌐

...

📅 Chiều ngày 22/12/2024, sự kiện Open Campus được tổ chức thành công tại Trụ sở chính CodeGym Việt Nam. Sự kiện thu hút sự quan tâm của sinh viên, học viên và các cá nhân đang tìm kiếm cơ hội học tập và làm việc trong lĩnh vực IT tại Nhật Bản.

📢 Thông qua sự kiện, người tham dự đã có cái nhìn rõ nét về các cơ hội học tập và phát triển sự nghiệp trong ngành IT tại Nhật Bản. Tại đây, các bạn không chỉ được nghe những chia sẻ kinh nghiệm từ chuyên gia và cựu du học sinh mà còn ... さらに表示



自己紹介

自己紹介を追加

📄 ページ・専門学校・大学・教育関連サイト

📍 東京都

☎ +81 3-3369-1995

✉ denshi.mext@jec.ac.jp

🌐 denshi-mext.jp/itsj

🌐 ウェブサイトを宣伝

★ まだ評価はありません(レビュー0件) ⓘ

📝 詳細を編集

📁 注目のコンテンツを追加

写真

すべての写真を見る



ITSJ

作成者: 송경주

📅 4日 · 🌐

#일본여행 #스이젠지 조주엔 #스이젠데라 #관광명소 #수전사공원
#사진찍기좋은곳 #구마모토시
#이색데이트코스 #일본 #일본신사
#일본사찰 #일본정원
#TSMC ... さらに表示



👁 인사이트와 광고を見る

📢 投稿を宣伝



いいね!



コメントする



送信



シェア



ITSJとしてコメント

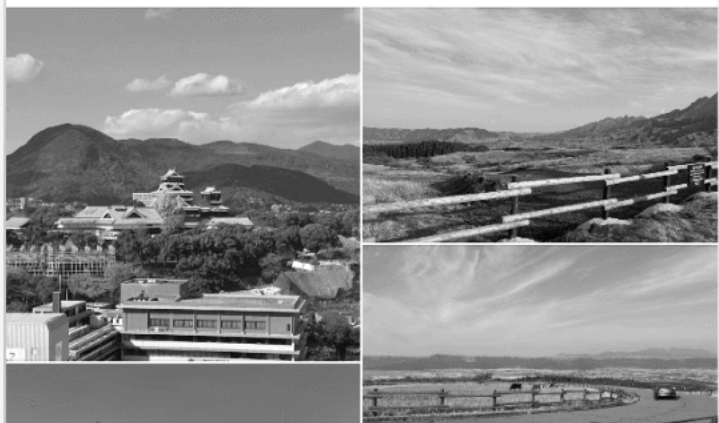


ITSJ

作成者: 송경주

📅 4日 · 🌐

#일본여행 #구마모토여행 #구마모토성 #관광명소
#사진찍기좋은곳 #아소산 #아카우시동
#이색데이트코스 #일본 #일본신사
#맛집 #아소시 #
#데이트 #사진명소



3.4 日本IT留学リーフレット

日本IT留学リーフレットは、「日本IT専門人材留学ウェブサイト」の要約版として小冊子の形態にした広報媒体である。

各国（韓国・ベトナム）の日本留学希望者や教育機関等にオンラインオープンキャンパスへの参加を促す場合、本事業からの現地訪問者や現地の教職員等が留学希望者に勧誘・説明する際に配付する等の利用法を想定できる。

本リーフレットの基本仕様は次の通りである。

【媒体名】日本IT専門人材留学リーフレット (ITSJ: IT Study in Japan)

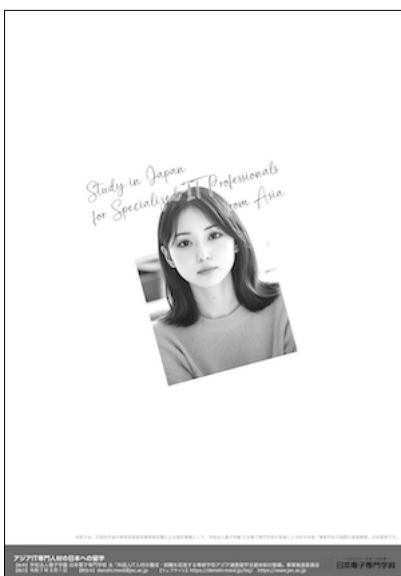
【判型・頁数】 A4判タテ・16頁

【各国語版】 日英語版、日韓語版、日越語版

以上の仕様の上で、本リーフレットの16頁の内容構成および版面例を以下に示す。

▼ リーフレット内容構成

 日本IT専門人材 留学リーフレット IT Study in Japan A4判タテ 16頁 カラー 日英韓越版 制作	表紙 01	日本のIT産業の現状 IT産業の キャリアパス 日本での就職の プロセス 06	留学手続ガイド 生活費・住居 生活に必要な諸手続 日常の文化・マナー アルバイト・ 生活支援 12	生活費・住居 生活に必要な諸手続 日常の文化・マナー アルバイト・ 生活支援 13
オンライン 学校説明会 開催案内 02	はじめに & メッセージ 03	IT留学生の就職ガイド 職場での定着と キャリアアップ 08	日本語能力の要件 日本語能力試験 日本語学校での学び 14	FAQ 15
日本のIT産業の 世界的評価 04	最先端のITトレンドが 集まる東京 IT技術イノベーション 05	IT専修学校で学ぶ メリット 10	日本のIT専修学校 11	奥付等 16



▼ リーフレット内容構成——日韓語版





日本国政府
文部科学省
国際交流事業

日本国政府の奨学金制度に基づき、アジアの優秀な人材を対象とした「アジアIT専門人材育成事業」を実施。本事業は、アジアの優秀な人材を対象とした「アジアIT専門人材育成事業」を実施。本事業は、アジアの優秀な人材を対象とした「アジアIT専門人材育成事業」を実施。

アジアIT専門人材の日本への留学

아시아 IT 전문 인재의 일본 유학

일한
대역란

日本電子専門学校

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

IT専門学校で学ぶメリット

IT 専門学校で得るものは

IT専門学校では、実習に力を入れた授業がカリキュラムに盛り込まれ、それを週2～4時間程度授業の中心に学習することによって身につける。

例えば、プログラミングやデザインなどの実習は、多くの授業時間と費を必要とする。授業時間と費用の両方を抑え、効果的にスキルを身につけることができる。

また、留学サポートの体制を整えている学校では、入学前から入学後の様々な課題をサポートしてくれる。入学後の生活や学習の面で悩むことなく、安心して学ぶことができる。

このように、IT専門学校のメリットは、学習環境と学習サポートの両方から得られる。入学前から入学後の様々な課題をサポートしてくれる。入学後の生活や学習の面で悩むことなく、安心して学ぶことができる。

日本のIT専門学校

日本のIT 専門学校

日本には、数多くのIT専門学校があり、それぞれが独自の特色を持っている。ここでは、その中でも代表的な学校を紹介する。

1. 専門学校ITパスポート

ITパスポートは、IT分野の基礎知識を学ぶための資格試験。専門学校では、この資格試験に合格するための学習プログラムを提供している。

2. 専門学校ITエンジニア

ITエンジニアは、IT分野の専門知識を学ぶための資格試験。専門学校では、この資格試験に合格するための学習プログラムを提供している。

3. 専門学校ITデザイン

ITデザインは、IT分野のデザイン知識を学ぶための資格試験。専門学校では、この資格試験に合格するための学習プログラムを提供している。

日本のIT専門学校

日本のIT 専門学校

日本には、数多くのIT専門学校があり、それぞれが独自の特色を持っている。ここでは、その中でも代表的な学校を紹介する。

1. 専門学校ITパスポート

ITパスポートは、IT分野の基礎知識を学ぶための資格試験。専門学校では、この資格試験に合格するための学習プログラムを提供している。

2. 専門学校ITエンジニア

ITエンジニアは、IT分野の専門知識を学ぶための資格試験。専門学校では、この資格試験に合格するための学習プログラムを提供している。

3. 専門学校ITデザイン

ITデザインは、IT分野のデザイン知識を学ぶための資格試験。専門学校では、この資格試験に合格するための学習プログラムを提供している。

日本留学までの手順

日本留学までの手順

日本留学までの手順は、入学前・入学中・入学後の3つの段階に分けられる。ここでは、それぞれの段階について詳しく説明する。

1. 入学前

入学前には、入学許可証の取得、入学料の納入、入学手続きの完了が必要となる。また、入学前には、入学許可証の取得、入学料の納入、入学手続きの完了が必要となる。

2. 入学中

入学中は、授業の受講、実習の参加、学習の進捗の管理が必要となる。また、入学中は、授業の受講、実習の参加、学習の進捗の管理が必要となる。

3. 入学後

入学後は、卒業の準備、卒業料の納入、卒業手続きの完了が必要となる。また、入学後は、卒業の準備、卒業料の納入、卒業手続きの完了が必要となる。

日本留学までの手順

日本留学までの手順

日本留学までの手順は、入学前・入学中・入学後の3つの段階に分けられる。ここでは、それぞれの段階について詳しく説明する。

1. 入学前

入学前には、入学許可証の取得、入学料の納入、入学手続きの完了が必要となる。また、入学前には、入学許可証の取得、入学料の納入、入学手続きの完了が必要となる。

2. 入学中

入学中は、授業の受講、実習の参加、学習の進捗の管理が必要となる。また、入学中は、授業の受講、実習の参加、学習の進捗の管理が必要となる。

3. 入学後

入学後は、卒業の準備、卒業料の納入、卒業手続きの完了が必要となる。また、入学後は、卒業の準備、卒業料の納入、卒業手続きの完了が必要となる。

日本留学までの手順

日本留学までの手順

日本留学までの手順は、入学前・入学中・入学後の3つの段階に分けられる。ここでは、それぞれの段階について詳しく説明する。

1. 入学前

入学前には、入学許可証の取得、入学料の納入、入学手続きの完了が必要となる。また、入学前には、入学許可証の取得、入学料の納入、入学手続きの完了が必要となる。

2. 入学中

入学中は、授業の受講、実習の参加、学習の進捗の管理が必要となる。また、入学中は、授業の受講、実習の参加、学習の進捗の管理が必要となる。

3. 入学後

入学後は、卒業の準備、卒業料の納入、卒業手続きの完了が必要となる。また、入学後は、卒業の準備、卒業料の納入、卒業手続きの完了が必要となる。

よくある質問

よくある質問

よくある質問は、入学前・入学中・入学後の3つの段階に分けられる。ここでは、それぞれの段階について詳しく説明する。

1. 入学前

入学前には、入学許可証の取得、入学料の納入、入学手続きの完了が必要となる。また、入学前には、入学許可証の取得、入学料の納入、入学手続きの完了が必要となる。

2. 入学中

入学中は、授業の受講、実習の参加、学習の進捗の管理が必要となる。また、入学中は、授業の受講、実習の参加、学習の進捗の管理が必要となる。

3. 入学後

入学後は、卒業の準備、卒業料の納入、卒業手続きの完了が必要となる。また、入学後は、卒業の準備、卒業料の納入、卒業手続きの完了が必要となる。

Study in Japan

Study in Japan

Study in Japan is a program that allows students to study in Japan. It is a program that allows students to study in Japan. It is a program that allows students to study in Japan.

Study in Japan

Study in Japan

Study in Japan is a program that allows students to study in Japan. It is a program that allows students to study in Japan. It is a program that allows students to study in Japan.

Study in Japan

Study in Japan

Study in Japan is a program that allows students to study in Japan. It is a program that allows students to study in Japan. It is a program that allows students to study in Japan.

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

信息基础设施
Information Infrastructure

Thực trạng ngành CNTT Nhật Bản

Ngành công nghệ CNTT đang chiếm một vị trí quan trọng trong nền kinh tế và xã hội Nhật Bản. Các doanh nghiệp và cơ quan chính phủ cũng đang đầu tư mạnh mẽ để nâng cao năng lực cạnh tranh và hiệu quả hoạt động thông qua ứng dụng công nghệ thông tin.

Đặc biệt, Nhật Bản được biết đến là một trong những quốc gia đi đầu trong việc ứng dụng công nghệ thông tin vào các lĩnh vực như sản xuất, dịch vụ, y tế, giáo dục, và nông nghiệp. Các doanh nghiệp Nhật Bản cũng đang đầu tư mạnh mẽ vào nghiên cứu và phát triển để tạo ra các sản phẩm và dịch vụ mới.

Trong bối cảnh này, việc nghiên cứu và phân tích thực trạng ngành CNTT tại Nhật Bản là cần thiết để hiểu rõ hơn về những thách thức và cơ hội mà ngành này đang gặp phải, từ đó đưa ra các giải pháp và đề xuất phù hợp để nâng cao năng lực cạnh tranh và hiệu quả hoạt động của ngành CNTT tại Việt Nam.

Lò trình sự nghiệp ngành CNTT và ứng trình tìm việc tại Nhật

Trong ngành CNTT, không chỉ cần có kỹ thuật mà còn cần có kỹ năng mềm để có thể ứng dụng kiến thức vào thực tiễn. Dưới đây là một số kỹ năng cần thiết để ứng dụng trong ngành CNTT tại Nhật Bản:

- Kỹ năng chuyên môn:** Bao gồm kiến thức về lập trình, quản lý dự án, phân tích hệ thống, và các công nghệ mới.
- Kỹ năng ngoại ngữ:** Tiếng Anh là ngôn ngữ phổ biến trong ngành CNTT, đặc biệt là trong môi trường làm việc quốc tế.
- Kỹ năng mềm:** Bao gồm kỹ năng giao tiếp, làm việc nhóm, giải quyết vấn đề, và quản lý thời gian.

Để đạt được trình độ chuyên môn và kỹ năng cần thiết, người học cần có kế hoạch học tập và rèn luyện nghiêm túc. Ngoài ra, việc tham gia các dự án thực tế và tìm kiếm cơ hội thực tập cũng là một cách để tích lũy kinh nghiệm và kỹ năng cần thiết.

Trong quá trình tìm kiếm việc làm tại Nhật Bản, người học cần chú ý đến các yêu cầu của nhà tuyển dụng và chuẩn bị hồ sơ xin việc một cách cẩn thận. Việc tìm hiểu về văn hóa và phong tục tập quán của Nhật Bản cũng là một yếu tố quan trọng để có thể hòa nhập và làm việc hiệu quả trong môi trường mới.

Những thách thức mà người học có thể gặp phải trong quá trình tìm kiếm việc làm tại Nhật Bản bao gồm:

- Thiếu kinh nghiệm:** Nhiều nhà tuyển dụng yêu cầu ứng viên phải có kinh nghiệm làm việc.
- Ngôn ngữ:** Việc không thành thạo tiếng Nhật có thể là một rào cản lớn trong quá trình tìm kiếm việc làm.
- Thị trường cạnh tranh:** Thị trường lao động CNTT tại Nhật Bản rất cạnh tranh, đòi hỏi ứng viên phải có kỹ năng và kinh nghiệm vượt trội.

Mặc dù gặp phải nhiều thách thức, nhưng nếu người học có đủ kiên trì, nỗ lực và kỹ năng cần thiết, họ vẫn có thể tìm được cơ hội việc làm và phát triển sự nghiệp trong ngành CNTT tại Nhật Bản.



BIG DATA



IT GOVERNANCE



DIGITAL DATA



INTERNET



SOFTWARE DEVELOPMENT



INFORMATION NETWORK



MOBILE APPLICATION



CLOUD STORAGE



HARDWARE



SERVER



INFRASTRUCTURE



PROCESS



INFORMATION TECHNOLOGY

IT留学生への就職

留学生は日本での就職を目指し、日本企業や大学から実習先へ派遣されるケースが大半です。日本企業はグローバルシステムへの対応が急務であり、IT分野の海外派遣を通して技術の交流や高度な教育を受けた人材のブライダルにも関与することがあります。

それと同時に、日本企業による海外派遣は単に派遣して派遣先で就業しての成長と教育だけでなく、派遣先での成長と教育にも関与しています。

海外派遣活動は、留学者の留学申請やIT実習、法的サポートまでIT企業が行うことが大半です。

海外派遣企業の成長を促すことで、企業価値は自己資本と流動性を同時に向上させ、利益率を向上させることに貢献します。

IT分野では海外派遣されるため、留学者自身がIT企業で働く機会が非常に多くなります。

海外派遣のキャリアパスはIT企業で活躍し、経験豊富なソフトウェアエンジニアとして活躍を受けることで、より高いキャリアパスへと進むことができます。

[illegible]

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

よくある質問





Q1 日本でアルバイトをするのは、どうすればよいですか。

Let's see how to get a part-time job in Japan?



日本でアルバイトをするには、まず日本での生活費を自分でまかなう必要があります。日本では、アルバイトで得た収入は、税金を引かれた上で、手取りで支払われます。また、日本では、アルバイトで得た収入は、税金を引かれた上で、手取りで支払われます。また、日本では、アルバイトで得た収入は、税金を引かれた上で、手取りで支払われます。



Q2 日本で大学や専門学校を卒業した後に必要なのは日本語能力試験の1級2級の程度ですか。

Can you tell me what level of Japanese language proficiency is required in Japan?



日本の大学や専門学校では、入国資格の要件を満たす必要があります。日本の大学や専門学校では、入国資格の要件を満たす必要があります。日本の大学や専門学校では、入国資格の要件を満たす必要があります。日本の大学や専門学校では、入国資格の要件を満たす必要があります。



Q3 日本での生活費はどの程度かかりますか。

Can you tell me how much it costs to live in Japan?



日本での生活費は、個人差がありますが、一般的に毎月10万円程度が必要です。日本での生活費は、個人差がありますが、一般的に毎月10万円程度が必要です。日本での生活費は、個人差がありますが、一般的に毎月10万円程度が必要です。日本での生活費は、個人差がありますが、一般的に毎月10万円程度が必要です。



Q4 日本に就職の希望があります。日本企業での大学進学です。

To study in a Japanese company, can I study in Japan?



日本企業での大学進学は、一般的に不可能です。日本企業での大学進学は、一般的に不可能です。日本企業での大学進学は、一般的に不可能です。日本企業での大学進学は、一般的に不可能です。日本企業での大学進学は、一般的に不可能です。

19

3.5 日本IT留学選抜試験

専修学校が企業等に送り出すIT留学生の質保証は極めて重要である。そのためにも、本事業で構築する支援体制では、留学生の選抜を実施する。考查対象は日本語能力・基本リテラシー・目的意識等を想定する。その上で、在学中の資質担保として、短期の入学前教育も企画する。

そこで、本事業では本年度（令和6年度）、日本IT留学選抜試験を試行的に作成した。

その際、当校も含めて多くの専修学校では現在、留学=入学志望者に対してJLPT準拠の日本語能力試験を課したり日本語能力要件を設けたりしている。また、面接や作文・小論文試験を実施して留学生を選抜している学校も少なくない。そのため、それに類する選抜試験を本事業で開発しても、あまり意味がない。

本事業はそもそも、日本留学を促進することも目的であるが、それにとどまらず、日本での就職・定着を支援することまでカバーする体制の整備を目指している。

したがって、そこで開発する留学選抜試験は、日本での就職も射程に入れた設計と作問が求められる。

そこで、本事業で作成した日本IT留学選抜試験では、次の3科目を設定した。

考查① 能力適性検査：言語領域

考查② 能力適性検査：非言語領域

考查③ アセスメント：職業意識

科目	【考查①】 能力適性検査：言語領域	【考查③】 能力適性検査：非言語領域	【考查②】 アセスメント：職業意識
目的	IT専修学校における授業内容を理解したりIT企業で求められたりする言語（日本語）領域での適性を評価する基礎資料にする。言葉の意味・関係や話の要旨を的確に捉えて理解できる能力の程度を測定する。	IT専修学校における授業内容を理解したりIT企業で求められたりする非言語領域での適性を評価する基礎資料にする。数的な処理や論理的思考を的確に遂行できる能力の程度を測定する。	キャリア教育の一環として、日本の職場で働く際に必要な概念や用語に関する知識の程度を測定・評価する基礎資料にする。思考法や意欲・態度等の「マインド」を敢て知識問題の枠組で捉え直す。
形式	筆記・択一式	筆記・択一式	筆記・択一式
内容	多くの企業の採用選考で利用されていた適性検査の言語領域能力検査に準拠した出題項目。 ○ 熟語の意味 ○ 多義語の意味 ○ 二語の関係 ○ 読解：評論用語とロジック ○ 読解：文整序	多くの企業の採用選考で利用されていた適性検査の非言語領域能力検査に準拠した出題項目。 ○ 損益算 ○ 命題 ○ 旅人算 ○ 推論 ○ 数列 ○ 集合 ○ 場合の数 ○ 装置と回路 ○ 確率 ○ 割合の計算	職業に関する狭義の「キャリア」（職業キャリア）のキーワードのうち特に日本の職場で求められる概念や用語について、その理解度・認知度を試す出題。チェックテストと自己評価の二部構成。 【キーワード例】 職業観・法令遵守・帰属意識・協調性・社会貢献・フォロワーシップ・報連相・プロフェSSIONAL・チームワーク 等

この3科目の考査の試験問題を以下に示す。

▼ 考査① 能力適性検査——言語領域

令和6年度 文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業——外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備
外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備

日本IT留学選抜試験

言語領域

1 【熟語の意味】 次の 01) 02) について、それを表す最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

01) おごり高ぶって他人を見下している様子。思い上がって横柄・無礼であること。

- ① 軽率 ② 謙虚 ③ 傲慢 ④ 慎重 ⑤ わからない

02) 趣味・言動・生き方が洗練されていない様子。融通が利かず、人情の機微に通じていないこと。

- ① 粹 ② 質素 ③ 上品 ④ 野暮 ⑤ わからない

2 【多義語の意味】 次の 03) 04) について、下線部と同じ意味・用法を含むものを①～④から1つ選んでください。

03) 東京の午後一時の空の様子

- ① 書き留めずに空で憶える ② 他人の空似である
③ 人の話を上の空で聞く ④ 雷鳴が雨空に響く ⑤ わからない

04) 太陽が東からのぼる

- ① 訪れた客が10万人にのぼる ② 工場から煙が立ちのぼる ③ 猿が木にのぼる
④ 前回3位の選手がトップの座にのぼる ⑤ わからない

3 【二語の関係】 次の 05) 06) について、二語の関係と同じ関係にあるものを①～⑦から1つ選んでください。

05) 原因：結果

- = ア 我慢：忍耐
 イ 義務：権利
 ウ 困難：容易

- ① アだけ ② イだけ ③ ウだけ ④ アとイ ⑤ アとウ
⑥ イとウ ⑦ アとイとウ ⑧ わからない

06) 役者：芸能人

- = ア 警察官：交番
 イ 検察官：訴追
 ウ 事務官：公務員

- ① アだけ ② イだけ ③ ウだけ ④ アとイ ⑤ アとウ
⑥ イとウ ⑦ アとイとウ ⑧ わからない

- 4 【二語の関係】 次の 07) 08) について、左辺にある二語の関係と同じ関係にある対を右辺に作る場合、各空欄に入る最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

07) 互角：対等 = 欠点：()

- ① 短所 ② 長所 ③ 美点 ④ 利点 ⑤ わからない

08) 理想：現実 = 自然：()

- ① 環境 ② 工業 ③ 人工 ④ 人間 ⑤ わからない

- 5 【読解：評論用語とロジック】 次の文章を読み、09) ～ 11) の問いに答えてください。

日本には古来、独特の美学がある。その (09) な美の概念に関心を持つ海外の研究者や文化人も多い。そもそも、美とは何か。これは、非常に難しい問題である。しかし、一つ言えることは、美とは、(10) に存在するものでなく、ある対象をどう見たり感じたりするかという人間の見方や感じ方の中に生れるものということである。つまり、それは、端的に言えば、(11) なものである。

09) 空欄 (09) に入る最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

- ① 近代的 ② 科学的 ③ 世界的 ④ 伝統的 ⑤ わからない

10) 空欄 (10) に入る最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

- ① 感覚的 ② 客観的 ③ 主観的 ④ 相対的 ⑤ わからない

11) 空欄 (11) に入る最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

- ① 客観的 ② 主観的 ③ 絶対的 ④ 理性的 ⑤ わからない

- 6 【読解：評論用語とロジック】 次の文章を読み、12) ～ 14) の問いに答えてください。

昔の日本では、紙も過去一年間の太陽エネルギーだけでできたのであり、西洋式の製紙とは、基本的な発想がまったく違っていた。

しかも、使った植物製品は、燃やしてしまっても、捨てて腐るにまかせても、全体として環境に対して影響がない。植物にとっての二酸化炭素（炭酸ガス）は、炭酸同化によって体を作るためのかけがえのない原料だから、去年生えた植物を燃やすのは、次の植物が育つために必要な成分を空气中に供給することになるだけで、空気中の二酸化炭素の量は、増えも減りもしない。また、もともとの土の原料の一部は、植物が腐食した物質だから、植物質のものを地面に放置して腐らせたところで、これも最後には土に帰って次の世代を育てる材料になり、全体としては何も変わらない。

(12)、植物の利用だけで成り立っている社会は、太陽エネルギーだけですべてを循環させ、人間はその循環の一部を利用しているだけなので、非常に労力はいるものの、環境そのものにはほとんど影響を及ぼさずに生きていける。人間社会全体が (13) に便乗して、無理をせずにほそぼそと生きていたのだ。

(14) これに対して、化石エネルギーを使う文明は、長い時間をかけて動植物の体からできた燃料を燃やして

成り立っているから、それだけの期間の太陽エネルギーの蓄積を一気に使うことになる。自然が何億年もかけて石炭や石油の形に固定した炭素を、五十年にも満たない短い期間にどんどん燃やしたり、プラスチックなどの形で使い捨てたりしながら一方通行の繁栄をとげたのが、われわれの誇る近代文明なのである。

(石川英輔『大江戸リサイクル事情』講談社文庫)

12) 空欄 (12) に入る最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

- ① しかし ② つまり ③ ところが ④ なぜなら ⑤ わからない

13) 空欄 (13) に入る最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

- ① エネルギー産業の国際化 ② B環境資源の再開発
③ 自然のリサイクル ④ 地球規模的な省エネ対策感覚的 ⑤ わからない

14) 下線部 (14) 「これ」が指すものとして最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

- ① 太陽エネルギー ② 化石エネルギーを使う文明
③ 植物の利用だけで成り立っている社会 ④ 人間社会全体客観的 ⑤ わからない

7 【読解：文整序】 次の 15) 16) の文章について、文意が通るように冒頭文に続けてア～ウを並べ替える場合、その適切な順序として最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

15) 脳卒中・癌・心臓病・糖尿病等は以前「成人病」と呼ばれていた。

- ア いずれにせよ、その呼び方が変わっても、患者数は年々増加している。
イ しかし、これらは今「生活習慣病」と呼ばれている。
ウ なぜなら、その発症に患者の生活習慣が大きく関わっていることが判ったからである。

- ① ア→イ→ウ ② ア→ウ→イ ③ イ→ア→ウ ④ イ→ウ→ア ⑤ わからない

16) 自分に嘘を付かず、時代が求めるものに応じられる人は、幸せな人である。

- ア しかし、私は、自分が時代の要求に応えられることに對し、何となく罪悪感を覚える。
イ なぜなら、自分を本当に生かすためには、そのようなことに幸福感を覚えない方がよいからである。
ウ しかも、時代の要求に応じてしまうことは、次の時代に捨てられることを意味するからである。

- ① ア→イ→ウ ② ア→ウ→イ ③ イ→ア→ウ ④ イ→ウ→ア ⑤ わからない

【正解】（言語領域）

小問	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
正解	③	④	④	②	⑥	③	①	③	④	②	②	②	③	③	④	①

▼ 考査② 能力適性検査——非言語領域

令和6年度 文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業——外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備
外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備

日本IT留学選抜試験

非言語領域

1 【損益算】 次の問題の答えとして最も適切なものを①～④から選んでください。

ある商品に、仕入れ値の3割の利益を見込んで定価をつけた。しかし、売れないため定価の3割引で売ったところ、270円の損失があった。この商品の仕入れ値はいくらか。

- ① 2000円 ② 2500円 ③ 3000円 ④ 3500円 ⑤ わからない

2 【旅人算】 次の問題の答えとして最も適切なものを①～④から選んでください。

タケシは分速60mで公園を出発した。その後にキヨシが分速160mでタケシを追いかけたところ、8分でタケシに追いついた。キヨシがPを出発したのは、タケシが公園を出発してから何分後か。

- ① 5分後 ② 6分後 ③ 7分後 ④ 8分後 ⑤ わからない

3 【数列】 次の 1) 2) について、空欄に入る数として最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

1) 数列 {7、12、22、37、57、()、……}

- ① 70 ② 74 ③ 78 ④ 82 ⑤ わからない

2) 数列 {20、8、16、12、12、16、8、20、()、……}

- ① 4 ② 8 ③ 12 ④ 16 ⑤ わからない

4 【場合の数】 次の 1) 2) の問題について、その答えとして最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

ある学校の将棋部10名から団体戦用チームを作る。

1) 主将・副将・三将という3名1チームを作る場合、何通りの選び方があるか。

- ① 86通り ② 240通り ③ 560通り ④ 720通り ⑤ わからない

2) 3名1チームを作る場合、何通りの選び方があるか

- ① 120通り ② 180通り ③ 240通り ④ 300通り ⑤ わからない

- 5【確率】次の 1) ～ 3) の問題について、その答えとして最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

紅白2個のサイコロを同時に投げる。

- 1) 紅のサイコロの目が偶数になる確率はいくらか。

① $1/6$ ② $1/4$ ③ $1/3$ ④ $1/2$ ⑤ わからない

- 2) 紅白2個のサイコロが互いに異なる目になる確率はいくらか。

① $1/2$ ② $2/3$ ③ $3/4$ ④ $5/6$ ⑤ わからない

- 3) 紅白2個のサイコロの目の和が7になる確率はいくらか。

① $1/18$ ② $1/12$ ③ $1/6$ ④ $1/4$ ⑤ わからない

- 6【命題】次の問題の答えとして最も適切なものを①～⑨から選んでください。

「数学が得意な者は成績がよい」「英語が得意な者は数学が得意である」という2つの事を言える場合、アとイの真偽について正しく述べているものはどれか。

ア 成績がよい者は数学が得意である。

イ 英語が得意な者は成績がよい。

- ① アとイのいずれも必ず正しい。 ② アは必ず正しいが、イは正しいと限らない。
 ③ アは必ず正しいが、イは必ず誤っている。 ④ アは正しいと限らないが、イは必ず正しい。
 ⑤ アは正しいと限らないが、イは必ず誤っている。 ⑥ アは必ず誤っているが、イは必ず正しい。
 ⑦ アは必ず誤っているが、イは正しいと限らない。 ⑧ アとイのいずれも正しいと限らない。
 ⑨ アとイのいずれも必ず誤っている。 ⑩ わからない

- 7【推論】次の問題の答えとして最も適切なものを①～⑦から1つ選んでください。

蕎麦・ラーメン・スパゲティという3つの料理がある。その価格について、次の事実が判っている。

「蕎麦とラーメンの価格の平均額は750円である」

「ラーメンとスパゲティの価格の平均額は600円である」

「蕎麦・ラーメン・スパゲティのどの商品の価格も400円以上である」

この事実に基づいて為された次のア～ウの推論のうち、必ず正しいものはどれか。

アア ラーメンの価格は、蕎麦の価格より必ず高い。

イ スパゲティの価格は、蕎麦の価格より必ず高い。

ウ スパゲティの価格は、ラーメンの価格より必ず高い。

- ① アだけ ② イだけ ③ ウだけ ④ アとイ ⑤ アとウ
 ⑥ イとウ ⑦ 全て正しい ⑧ わからない

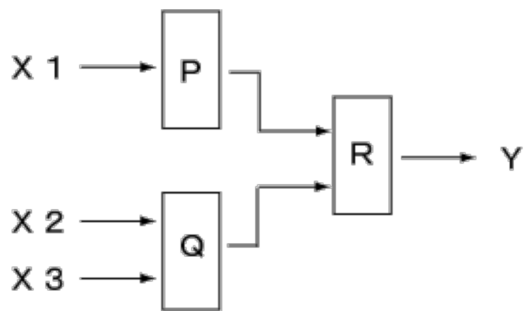
8 【集合】 次の問題の答えとして最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

ある旅行会社が60人を対象にし、宿泊はホテルと旅館のどちらを利用するかについてアンケート調査を実施した。40人がホテルを利用すると答え、32人が旅館を利用すると答えた。また、18人がホテルと旅館の両方を利用すると答えた。この時、ホテルも旅館も利用しない者は何人いるか。

- ① 6人 ② 8人 ③ 10人 ④ 12人 ⑤ わからない

9 【装置と回路】 次の問題の答えとして最も適切なものを①～⑧から1つ選んでください。

入力信号である0と1を次のようなルールで変換して出力する装置P・Q・Rがある。



装置Pは、0を入力すると1に、1を入力すると0に変換して出力する。

装置Qは、同時に入力された2つの信号のうち、両方が1であれば1を、少くとも一方が0であれば0を出力する。

装置Rは、同時に入力された2つの信号のうち、両方が0であれば0を、少くとも一方が1であれば1を出力する。

組み合わせ	X1	X2	X3
ア	1	0	0
イ	0	1	1
ウ	0	0	1

これらの装置を繋ぎ、上図のような回路を作った。

そして、この回路の入力部分であるX1・X2・X3に、ア・イ・ウの組み合わせで信号を入力した。

この組み合わせア～ウのうち、Yが1になるものはどれか。

- ① アだけ ② イだけ ③ ウだけ ④ アとイ ⑤ アとウ
 ⑥ イとウ ⑦ ア・イ・ウの全て ⑧ アもイもウも1にならない
 ⑨ わからない

10【割合の計算】次の1) 2)の問題について、その答えとしてとして最も適切なものを①～④から1つ選んでください。

ある食品の美味しさについて、20代と30代の女性に対して調査を行ったところ、下表のような結果になった。
この時、調査対象になった20代と30代の女性の人数の割合は4：6である。

	美味しい	美味しくない	合計
20代	50%	50%	100%
30代	80%	20%	100%

1)「美味しい」と回答した20代の女性は、調査対象になった全員の何%か。

- ① 8% ② 12% ③ 16% ④ 20% ⑤ わからない

2)「美味しくない」と回答した20代の女性が20人の時、「美味しい」と回答した30代の女性は何人か。

- ① 24人 ② 32人 ③ 40人 ④ 48人 ⑤ わからない

【正解】（非言語領域）

大問	1	2	3		4		5			6	7	8	9	10	
小問			1	2	1	2	1	2	3					1	2
正解	③	①	④	①	④	①	④	④	③	④	①	①	②	④	④

▼ 考査③ アセスメント——職業意識

令和6年度 文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業——外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備
外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備

日本IT留学選抜試験

職業意識 I

問1 次の各文の下線部について、その読みとして適切なものを選択肢①～③から1つ選んでください。

01) 人事の仕事には、人事・教育・採用・労務がある。

① ジンジ

② ジンチ

③ ニンジ

02) 食欲を節制する。

① セイゲン

② セツゲン

③ セッセイ

03) 人間の尊厳を大切にする。

① イゲン

② ソンゲイ

③ ソンゲン

04) その企業は法令遵守を徹底している。

① ソンシュ

② ヨウシュ

③ ジュンシュ

05) 集めた数々の事実から推論する。

① タイロン

② スイロン

③ ハンロン

問2 次の各文の下線部について、その漢字表記として適切なものを選択肢①～③から1つ選んでください。

06) 彼の勇気ある行動は強いシメイ感に基づくものであった。

① 指名

② 使命

③ 指命

07) 人望が厚いA氏はセイジツな人である。

① 誠実

② 精実

③ 誠質

08) 本校では、キリツを守ることが重視されている。

① 規律

② 起立

③ 規立

09) 地域に根付く文化・伝統のケイショウを支援する。

① 継承

② 継称

③ 経承

10) 対人サホウがしっかりとした人は周囲の信頼も厚い。

① 作法

② 作方

③ 処方

問3 次の各語について、それが示す内容として適切なものを選択肢①～③から1つ選んでください。

11) 職業観

- ① 様々な職業を観察した記録・レポート
- ② 職業に対する考え方・態度・価値観
- ③ 各職業における一般的な業務遂行手順

12) 管理職

- ① 事業目的達成のために継続的・計画的に意思決定を行って実行に移し、事業を管理・遂行する職種
- ② 職場で労働者を指揮して組織を運営する職種
- ③ 見込み客に自社商品の購入を促して売買契約を結ばせることで、自社利益に結び付ける職種

13) プロフェッショナル

- ① スポーツ等における見事なパフォーマンス・美技
- ② それを職業として行って生計を立てること
- ③ その分野のトップクラスの腕前であること

14) 報告

- ① 上司の指示に対して部下が任務の経過や結果を伝えること
- ② 情報を速やかに共有するための、電話の伝言等に代表される情報伝達
- ③ 仕事の問題等を解決するために、上司・先輩や専門家等に助言を求めること

15) 自立

- ① 他から支配・援助等を受けずに自分一人の力で活動すること
- ② 他から支配・制約等を受けず、自分が立てた規範に従って行動すること
- ③ 必要な物資を、他に求めるのではなく自力で獲得して賄うこと

16) 服務

- ① その企業等の制服を着用して職務に当ること
- ② 職業に就く・従事すること
- ③ 服飾業界で仕事に就くこと

17) 企業

- ① 営利目的で継続的・計画的に経済活動を行う組織体
- ② 自主性・無報酬・公共性を重んじて主に奉仕活動を行う団体
- ③ 国家から自治の権能を認められた公共の団体

18) モチベーション

- ① 動機付け・やる気・意欲
- ② 達成・業績
- ③ 体力・活力

19) 主要5教科

- ① 中学校における主要教科： 国語・数学・理科・社会・英語
- ② 大学・短期大学等における一般教養主要教科： 人文科学・社会科学・自然科学・語学・保健体育
- ③ 就職活動における主な選考試験： エントリーシート・適性検査・一般常識試験・論文・面接

20) フォロワーシップ

- ① 多数の人を統率できる能力・資質
- ② 自主的かつ積極的な判断・行動で上司を支えて組織の成果向上を図ろうとする部下の意識・態度
- ③ 自分の発言・行動を観察する人らで構成される集団

問4 次の各説明について、それを示す語として適切なものを選択肢①～③から1つ選んでください。

21) 人が働く目的を捉える際の3つの観点： 社会性・経済性・個人性

- ① 労働3法 ② 職業の3要素 ③ 経営の3資源

22) 仕事や職業を通じた人生経験の積み重ね

- ① 職業キャリア ② 職業ライフ ③ 職業ロード

23) 心身を労して仕事に励むことに対する考え方・態度・価値観

- ① 勤労観 ② 労働条件 ③ 企業ブランド

24) 速やかな情報共有のための、電話の伝言等に代表される情報伝達

- ① 連絡 ② 報告 ③ 相談

25) 物事の美・善等を無意識に直感して評価する能力

- ① 理性 ② 感性 ③ 特性

26) ある集団に自分が属している意識、その集団の一員であるという自覚

- ① 属性 ② 集団主義 ③ 帰属意識

27) 政治・経済・文化等の様々な側面で、従来の国家・地域の垣根を越え、地球規模で資本や情報のやりとりが行われること

- ① ネットワーク化 ② システム化 ③ グローバル化

28) 職業選択を通じたキャリア形成の計画

- ① キャリアトライアル ② キャリアプラン ③ キャリアミッション

29) 社会の一員として当然持つておくべき知識等、狭義では特に主要5教科+時事

- ① 企業情報 ② 一般常識 ③ 基本六法

30) 多数の人を統率できる能力・資質

- ① インターンシップ ② フォロワーシップ ③ リーダーシップ

問5 次の各文の（ ）に入る語として適切なものを選択肢①～③から1つ選んでください。

31) 人類の発明が技術を生み、技術が生産をもたらし、流通や販売を通して産業が展開されると、そこに仕事生まれ、（ ）が定義される。

- ① 賃金額 ② 職業 ③ 上下関係

32) 職区分、特に女子のキャリア形成上の職区分には、勤務地・職場が一定の範囲内に限定される一般職と、その企業の中で制約なくキャリア形成できる（ ）がある。

- ① 総合職 ② 事務職 ③ 特殊職

33) 職業人としての（ ）と責任を自覚することが、職業キャリアを積み重ねる際の基盤になる心構えとして極めて重要である。

- ① 収入 ② 社会的役割 ③ 夢

34) いかなる職場であれ、職業キャリアのマインドにおける最も基本的な考え方は（ ）の重視である。

- ① コミュニケーション ② 労働環境 ③ 物質的・精神的余裕

35) 自律できる職業人は、時間管理や段取り、意欲の維持や高揚、他者との協働をうまく管理できる（ ）を備えた人材と言える。

- ① セルフマネジメント力 ② リーダーシップ ③ 自己分析力

36) 被災経験を教訓にし、職員一人一人が強い（ ）意識を持って職務に当るべきである。

- ① 危機管理 ② 潜在 ③ 美

37) 個々の仕事が相互に関連性を持ちながら全体で大きく（ ）しているのが、社会における職業である。

- ① 分業化 ② 社会貢献 ③ 技術改良

38) 自己分析シートや職業（ ）検査等の診断ツールを活用することも職業選択の大切なプロセスである。

- ① 会計 ② 市場 ③ 適性

39) （ ）は職業人に必要な思考・行動・自律の基盤になるもので、具体的な知識の前に、まずは学習の大切さをしっかりと認識することが重要である。

- ① 専門知識 ② 企業研究 ③ 基礎学習

40) （ ）は仕事を達成するために不可欠なエネルギー源で、それを形成できねば仕事をやり遂げられない。

- ① 職業キャリア ② チームワーク ③ 倫理観

41) 人が働くのは生活等の糧になるための金を稼ぐためでしかなく、社会貢献はボランティア活動で、自己実現のための活動は勤務時間外に行うべきある。

② 不適切

② 不適切

② 不適切

② 不適切

② 不適切

② 不適切

② 不適切

② 不適切

② 不適切

② 不適切

84

令和6年度 文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業——外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備
外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備

日本IT留学選抜試験

職業意識 I

【正解】

問 1	01	02	03	04	05					
	①	③	③	③	②					
問 2	06	07	08	09	10					
	②	①	①	①	①					
問 3	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	②	②	②	①	①	②	①	①	①	②
問 4	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	②	①	①	①	②	③	③	②	②	③
問 5	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	②	①	②	①	①	①	②	③	③	②
問 6	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
	②	①	②	②	①	②	①	①	①	②

日本IT留学選抜試験

職業意識Ⅱ

問1 次の各語を知っていますか。その程度について該当するものを1つ選び、空所に○を記入してください。

No.	職業キャリアのキーワード	意味も知っている	意味は知らないが聞いたことはある	意味も知らないし聞いたこともない
01	職業観			
02	社会人			
03	キャリア			
04	事務職			
05	プロフェッショナル			
06	責任			
07	報告			
08	誠実			
09	理性			
10	自律			
11	協調性			
12	リーダーシップ			
13	礼節			
14	奉仕			
15	服務			
16	帰属意識			
17	忠誠心			
18	社会貢献			
19	地域連携			
20	組織			
21	グローバル化			
22	適性			
23	モチベーション			
24	推論			
25	チームワーク			

問2 次の各語が示す資質はあなたにありますか。その程度について該当するものを1つ選び、空所に○を記入してください。

No.	職業キャリアのキーワード	充分にある	あ る	あまりない	な い	言葉の意味がわからない
26	主体性					
27	愛情					
28	感性					
29	自立心					
30	意欲					
31	倫理観					
32	使命感					
33	責任感					
34	積極性					
35	チャレンジ精神					
36	公平性・公正性					
37	探究心					
38	リーダーシップ					
39	誇り					
40	セルフマネジメント力					
41	品性					
42	強み					
43	律する力					
44	一般常識					
45	チーム意識					

問3 次の各語①～③のうち、あなたが最も重視するものはどれですか。該当するものを1つ選び、空所にその番号を記入してください。

No.	職業キャリアのキーワード			最も重視するもの
	①	②	③	
46	マインド	知識スキル	健康	
47	目標設定	探究心	達成志向	
48	社会の発展	社会的役割	自分の価値観	
49	リーダーシップ	コミュニケーション	フォロワーシップ	
50	職業意識・自覚	論理思考	対人作法	

問題は以上です。最後に回答内容を再度確認してください。

3.6 オンライン教育システム仕様

本事業で次年度（令和7年度）に展開する**教育指導**の活動は、学校が策定したカリキュラムに基づく通常授業を阻碍しないよう、主にインターネット上で実現されてフレキシブルな学習スタイルを可能にする**オンライン教育**の形をとる。これにより、留学生が来日後の学習にスムーズに入れるような**補完教育**（IT留学生教育プログラム）を実施する。

そのため、本事業では、本年度（令和6年度）に実施した「オンライン教育システム事例調査」（2.4）の結果を踏まえ、次年度に**オンライン教育システム**を構築する。それに先立って本年度に策定した、その仕様案を以下に示す。

▼ オンライン教育システム仕様案

1 在籍管理	1.1 ログイン情報	▶ 受講者の最終ログイン日時 ▶ 指導者の最終ログイン日時
	1.2 コース設定	▶ 1学校・団体について複数のコース・指導者の設定・登録が可能
2 学習管理	2.1 課題取組	▶ 回答状況（未着手状況・開封日時・着手日時・提出日時） ▶ 得点・正答率 ▶ 平均点（課題別・個人別）・各問正答率
	2.2 動画視聴	▶ 視聴状況（未視聴状況・開封日時・初回視聴日時・最終視聴日時・視聴完了日時） ▶ 再生時間（動画の長さに対し、学生がそれを最後まで視聴したかの確認が可能）
3 CBT出題	3.1 問題仕様	▶ 出題形式： 3肢択一式 ▶ 出題内容： 講義内容の理解度を測定する一問一答問題 ▶ 搭載問題数： 5問×40単元程度、計200問程度
	3.2 自主学習	▶ 搭載された全問題について目次から問題セットを選んで自主学習。反復練習が可能。
	3.3 課題配信	▶ 搭載された全問題からランダムまたはセミオーダーで課題を作成し、受講者（全体/個別）に配信。
	3.4 自動採点	▶ 自動採点による正答率の自動算出。基準点未達の場合、課題の再配信も可能。
	3.5 自動配信	▶ 日時を設定したタイマーセットにより、課題の自動配信・自動締切・自動採点が可能。長期休業中も課題配信が可能。
	3.6 出力印刷	▶ 作成・配信した課題は印刷出力し、中間試験・期末試験・進級試験等で配付可能。マークシート対応で採点も簡易。

4 授業配信	4.1 オンライン型授業	▶ Zoom・Teams等のWEB会議システムに対応し、事前セットでオンライン型授業が可能。
	4.2 ハイブリッド型授業	▶ Zoom・Teams等のWEB会議システムに対応し、オンライン型授業と併用して対面授業が可能。
	4.3 オンデマンド型授業	▶ 動画数： IT留学生教育プログラム4科目30～40単元の計40点程度。 ▶ 指導者が動画を指定して受講者に提示する課題配信が可能。視聴ログの保存により、受講者の視聴状況の把握が可能。 ▶ 学校が独自に作成した動画をYouTube等にアップロードし、そのURLを管理画面から登録して学校オリジナル教材化が可能。
	4.4 ハイフレックス型授業	▶ ハイブリッド型授業（オンライン型授業+対面授業）と併用してオンデマンド型授業（動画視聴・CBT解答）の実施が可能。
5 その他	5.1 コミュニケーション	▶ メッセージ機能により、受講者-指導者間の質疑応答が可能。LINEに似せたUIにより、気軽なコミュニケーションが可能。
	5.2 レスポンスデザイン	▶ 端末毎のデザイン自動調整により、PC・タブレット・スマートフォンのいずれでも無理のない取組が可能。

この仕様案のうち、本事業の限られた予算・時間を考慮した上で、次年度に実施するIT留学生教育プログラムに必要な一部の機能を選定・再構成し、プロトタイプとしてオンライン教育システムを構築する。

第4章

催行報告

4.1 オンラインオープンキャンパス概要

本事業で本年度（令和6年度）に展開した**広報募集**の活動では、ウェブサイト&リーフレットやSNSでの情報発信と共に、**オンラインオープンキャンパスでの交流・啓発**にも注力した。

オンラインオープンキャンパスは、従来のオンサイト（来校型）オープンキャンパスに対し、自国（自宅）にいて移動の制約がなく気軽に、進学希望先の学校説明会・留学相談会等に参加できるもので、留学生募集にこそ有用な手法である。コロナ禍の影響で来校型オープンキャンパスを縮小・中止せざるを得ない教育機関が多かった中、国内でオンラインオープンキャンパスを逸早く取り入れたのが専修学校で、その開催実績には一日の長がある。

本事業で企画・催行するオンラインオープンキャンパスは、目的意識のある参加者の確保をより確実にするべく、**現地の大学・日本語学校等との提携によって対象者を予め囲い込み、そこに参加を促す仕方を主な募集手法にした。**

そして、その内容は全般的に、ウェブサイトと同様、単なる自校紹介でなく、**日本の魅力や日本で学ぶことの意義を理解させることを通じて日本への留学・就職を促す啓発的アプローチ**によるものにした。具体的には、専修学校が日本社会を支える重要な人材を送り出す教育機関であり、卒業生は職場の専門スキル修得者として期待されることを明記することで、**彼らが学びの中で就職を意識できるような内容にした。**

その上で、本年度事業では、**韓国・ベトナムの2国を対象にして令和6年12月、計4回のオンラインオープンキャンパスを次の日時で開催した。**

- ①【韓国】令和6年12月5日（木）17:00～ NHK語学院 在院生 男女31人
- ②【韓国】令和6年12月11日（水）12:00～ 瑞逸大 schools 在学生 男女27人
- ③【ベトナム】令和6年12月22日（日）10:00～ ホアンロン高校 在校生 男女36人
- ④【ベトナム】令和6年12月22日（日）14:00～ タインドー大学等 在学生 男女37人

これに先立ち、韓国もベトナムも、本事業の事業推進委員会の委員が視察・調整に赴き、連携先の確保、現地コーディネーターとの打合せ、実施環境の確認等、入念な準備を行った。そのため、参加者の募集や当日の運用も非常に円滑に実行できたと言える。

実際の各回の催行内容や参加者の反応等について、次節以降で詳説する。

4.2 オンラインオープンキャンパス催行内容

本年度（令和6年度）事業で令和6年12月に催行した、韓国・ベトナムの高校生・大学生等を対象にした計4回のオンラインオープンキャンパスの内容は次の通りである。

▼ オンラインオープンキャンパス催行内容：韓国（2回）

国	韓 国	
日時	令和6年12月5日（木） 17:00～18:00	令和6年12月11日（水） 12:00～13:00
現地会場	ソウル	
	NHK語学院	瑞逸大學校
現地運営	NHK語学院 （李委員・宋オブザーバ等）	李委員・宋オブザーバ
現地参加者	NHK語学院 在院生 31人 （高1～3、大1～4、社会人）	瑞逸大學校 ビジネス日本語學科 在學生（大2）27人
日本出席者	寺脇委員長・山上委員・木村委員・古川委員・電子学園在校生・事務局	
内容	1 開会宣言（山上委員） 2 実施委員長挨拶（寺脇委員長） 3 日本のイメージ・IT人材・就職事情・留學生活・JEC&iU紹介（木村委員） 4 日本のIT企業と就業環境（古川委員） 5 先輩メッセージ：アルバイト・友人・ホームシック対策等 6 質疑応答（先輩・古川委員等） 7 閉会宣言（山上委員）	

本事業で催行したオンラインオープンキャンパスでは、学校側からの説明だけでなく、IT企業の人事部による講演もあり、日本のIT業界における外国人の働き方等についても現場の生の声を届けることができた。また、日本のIT企業への就職が決っている当校在校生（韓国人留學生）にも参加させ、日本での留學生活や就職活動等について母語で解説しながら、現地の留學志望者を激励した。

▼ オンラインオープンキャンパス催行内容：ベトナム（2回）

国	ベトナム	
日時	令和6年12月22日（日）	
	UTC+7 10:00～12:00	UTC+7 14:00～16:00
現地会場	ハノイ	
	NOVOTEL HOTEL	CodeGym
現地運営	NKDV・山上委員	NKDV・CodeGym・山上委員
現地参加者	現地日本語学校・高校等 在校生＆保護者 40人以上	CodeGym在籍生等 40人以上 （高校生・大学生・社会人）
日本出席者	寺脇委員長・木村委員・徳安委員・古川委員・電子学園在校生3人・事務局	
内容	1 開会宣言（山上委員） 2 実施委員長挨拶（寺脇委員長） 3 日本のイメージ・IT人材・就職事情・留学生活・JEC&iU紹介（木村委員） 4 日本のIT企業と就業環境（古川委員） 5 日本語学習のポイント（菊池オブザーバ） 6 先輩メッセージ（JEC&iU先輩3人） 7 質疑応答（先輩・古川委員等） 8 閉会宣言（山上委員） 9 日本クイズ3～5問（NKDV）	

ベトナム回のオンラインオープンキャンパスは、IT企業の人事部や当校在校生（ベトナム人留学生）の参加を得たのは韓国回と同様であるが、韓国回との最も大きな違いは、現地参加者の日本語能力である。韓国回の現地参加者は全体として（日本留学前にも拘らず）日本語能力が非常に高かったため、ほぼ日本語だけで進行できた。しかし、非漢字圏国であるベトナムの場合、全体として（日本留学前の日本語教育だけでは）日本語能力が不足していたり個人差が大きかったりしたため、日越通訳者を交えての催行であった。そのため、1回の催行時間は韓国回の約2倍になった。また、ベトナム回の場合、現地高校生の参加が多かったため、催行2回を高校生回と大学生以上回に分けて行う仕立にした（説明の内容や仕方もそれに応じた）。

▼ オンラインオープンキャンパス催行風景：韓国回（令和6年12月5日）



▼ オンラインオープンキャンパス催行風景：ベトナム（令和6年12月22日AM）



▼ オンラインオープンキャンパス催行風景：ベトナム（令和6年12月22日PM）



尚、このベトナム午後回の様子は、ベトナム現地のオンラインメディア『DAN TRI』紙に掲載され、その意義と共に紹介された (<https://dantri.com.vn/giao-duc/co-hoi-phat-trien-su-nghiep-it-tai-nhat-ban-20241230224616746.htm>)。

4.3 オンラインオープンキャンパス参加アンケート結果

本年度（令和6年度）事業で令和6年12月に催行した、韓国・ベトナムの高校生・大学生等を対象にした計4回のオンラインオープンキャンパス（OOC: Online Open-Campus）では、全回共通の内容で参加者アンケートを実施した。

計131人からの回答を回収したが、各回の回答回収数は次の通りである。

- ①【韓国】令和6年12月5日（木）17:00～ NHK語学院 在院生 男女31人
- ②【韓国】令和6年12月11日（水）12:00～ 瑞逸大學校 在学生 男女27人
- ③【ベトナム】令和6年12月22日（日）10:00～ ホアンロン高校 在校生 男女36人
- ④【ベトナム】令和6年12月22日（日）14:00～ タインドー大学等 在学生 男女37人

このアンケートの質問は、「本日のOOCについて」と「日本への就職・留学について」の2部で構成される。その質問項目は次の通りである。

1 本日のOOCについて

- 1.1 OOCの内容の理解度
- 1.2 OOCの今後の有用性
- 1.3 OOCの実施環境の満足度
- 1.4 OOC参加による意欲向上度
- 1.5 OOCで関心を持ったテーマ
- 1.6 次回以降OOCへの参加意向

2 日本への就職・留学について

- 2.1 回答者が知っている日本企業（ロゴマーク）
- 2.2 日本就職後の希望最低年収
- 2.3 日本留学における不安。心配
- 2.4 日本留学に必要なサポート
- 2.5 回答者が感ずる日本の魅力

このアンケートの質問票と回答集計結果を次頁以降に示す。

▼ オンラインオープンキャンパス参加アンケート：質問票



文部科学省



一人ひとりに、未来への約束。

日本電子専門学校

オンラインオープンキャンパス

参加アンケート

2024年12月実施

本日のオンラインオープンキャンパス（Online Open Campus、以下「OOC」）や日本への就職・留学に関する以下の各質問について、あてはまる選択肢を○で囲んでください。 ※ 質問は本紙裏面にもあります。

学 年	高1	高2	高3	大1	性 別	男	・	女	氏 名
	大2	大3	大4	社会人					

1 本日のOOCについて

1.1 本日のOOCの内容は理解できましたか。[1つ選択]

- ① よく理解できた ② 少し理解できた ③ あまり理解できなかった ④ 全く理解できなかった

1.2 将来の進路を考える際、本日のOOCの内容は役に立ちそうですか。[1つ選択]

- ① 非常に役に立つ ② 少し役に立つ ③ あまり役に立たない ④ 全く役に立たない

1.3 本日のOOCの実施環境（設備・現場支援・時間等）はいかがでしたか。[1つ選択]

- ① よかった ② どちらかと言えばよかった ③ 少し問題があった ④ 大いに問題があった

1.4 本日のOOCに参加したことで、日本への留学・就職の意欲は高まりましたか。[1つ選択]

- ① 大いに高まった ② 少し高まった ③ あまり高まらなかった ④ 全く高まらなかった

1.5 本日のOOCで「面白い！興味深い！」「勉強になった！」と感じたテーマはどれですか。[3つ選択]

- ① 実施委員長の話 ② 日本企業の話 ③ 日本での就職 ④ 日本への留学 ⑤ 日本での生活
⑥ 日本語の学習 ⑦ 先輩（留学生）の話 ⑧ 質疑応答 ⑨ その他（ ）
⑩ 特にない

1.6 今後もこのような交流イベントがあれば、また参加したいと思いますか。[1つ選択]

- ① ぜひ参加したい ② 都合がよければ参加したい ③ あまり参加したくない ④ 全く参加したくない

2 日本への就職・留学について

2.1 あなたが知っている日本企業はどれですか。企業ロゴマークを○で囲んでください。[複数選択可]



その他 ()

※ 以上の企業はどれも日本電子専門学校^{そつぎょうせい}の卒業生^{さき}の就職先です。

2.2 日本で就職した場合、あなたは最低でもどの程度の年収^{さいてい ていど ねんしゅう え}を得たいと考えますか。[1つ選択]

- ① ￥20,000,000 (約213万円) ～/ ￥400,000,000 (約248万円) ～ ② ￥25,000,000 (約266万円) ～/ ￥500,000,000 (約310万円) ～
 ③ ￥30,000,000 (約320万円) ～/ ￥600,000,000 (約372万円) ～ ④ ￥35,000,000 (約373万円) ～/ ￥800,000,000 (約496万円) ～

2.3 実際に日本に留学する場合、あなたが不安に思ったり心配したりすることは何ですか。[3つ選択]

- ① 日本語能力の不足^{ほうしき} ② 日本の教育方式への適応^{てきおう} ③ 文化や生活習慣^{しゅうかん}の違いへの適応^{ちが}
 ④ 留学先での人間関係の不安^{きょうり} ⑤ 母国の家族や友人との距離^{いりょう} ⑥ 日本での医療や健康面のサポート
 ⑦ ビザや留学手続きの手間^{てつづ てま} ⑧ 学費や生活費の負担^{ふたん} ⑨ 留学後のキャリアへの影響^{えいきょう}
 ⑩ 安全性^{あんぜんせい} (自然災害・治安等)^{し ぜんさいがい ち あん} ⑪ その他 () ⑫ 特にない

2.4 実際に日本に留学する場合、あなたが必要と思うサポートは何ですか。[3つ選択]

- ① 日本語能力向上のためのプログラム^{こうじょう} ② 留学先での住居に関するサポート (寮・アパート探し等)^{じゅうきょ}
 ③ 留学先での生活に関するガイダンス^{りょう} ④ 就職活動・インターンシップ支援やキャリア相談・ガイダンス等^{さぎ}
 ⑤ 留学前後の各種事務手続きのサポート^{かくしゆ じ む} ⑥ 医療保険や健康サポートの案内^{い けん}
 ⑦ 留学先での日本人学生や母国留学生との交流機会^{き かい} ⑧ 学費や奨学金に関する情報提供^{しやうがくきん}
 ⑨ その他 () ⑩ 特にない

2.5 あなたは日本にどのような魅力^{みりょく}を感じていますか。[3つ選択]

- ① 漫画・アニメ等のポップカルチャー^{まん が} ② 茶道・着物等の伝統文化^{き どう き もの でんとう} ③ 寺社・城等の歴史的建築物^{じ しゃ し ょ ねき し てきけんちくぶつ}
 ④ 治安がよい安全な環境^{しんせん} ⑤ おいしく新鮮で健康的な和食^{せんしんてき} ⑥ 公共交通機関の便利さと正確さ^{こうきやうこうつう き かん べん り せいかく}
 ⑦ テクノロジーと先進的な都市 (新幹線・ロボット等)^{しんかんせん} ⑧ 教育の質が高い学校や大学
 ⑨ ショッピングやファッションの豊富さ^{ほうふ} ⑩ 親切で礼儀正しく謙虚な人々^{しんせつ れいぎ けんきよ}
 ⑪ 観光地の多様性 (都市/地方・自然・離島等)^{かんこう ち たようせい りとう} ⑫ その他 () ⑬ 特にない

質問は以上です。ご協力^{きやうりよく}ありがとうございました。

▼ オンラインオープンキャンパス参加アンケート：回答集計結果

- 【回答者】① 令和6年12月5日（木）17:00～ NHK 語 学 院 在院生 男女31人
 ② 令和6年12月11日（水）12:00～ 瑞 逸 大 学 校 在学生 男女27人
 ③ 令和6年12月22日（日）10:00～ ホアンロン高校 在校生 男女36人
 ④ 令和6年12月22日（日）14:00～ タインドー大学等 在学生 男女37人

0 回答者属性

▼ 学年

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
高校1年生	2	6.5	0	0.0	13	36.1	0	0.0	15	11.5
高校2年生	6	19.4	0	0.0	23	63.9	0	0.0	29	22.1
高校3年生	4	12.9	0	0.0	0	0.0	2	5.4	6	4.6
大学1年生	10	32.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10	7.6
大学2年生	0	0.0	27	100.0	0	0.0	14	37.8	41	31.3
大学3年生	1	3.2	0	0.0	0	0.0	6	16.2	7	5.3
大学4年生	1	3.2	0	0.0	0	0.0	1	2.7	2	1.5
社 会 人	7	22.6	0	0.0	0	0.0	5	13.5	12	9.2
無 回 答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	9	0.0	9	6.9

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、SA]

▼ 性別

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
男 性	13	41.9	17	63.0	11	30.6	25	67.6	66	50.4
女 性	18	58.1	10	37.0	16	44.4	4	10.8	48	36.6
無回答	0	0.0	0	0.0	9	25.0	8	21.6	17	13.0

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、SA]

1 本日のOOCについて

1.1 本日のOOCの内容は理解できましたか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
よく理解できた	18	58.1	15	55.6	11	30.6	12	32.4	56	42.7
少し理解できた	10	32.3	10	37.0	24	66.7	23	62.2	67	51.1
あまり理解できなかった	2	6.5	1	3.7	1	2.8	1	2.7	5	3.8
全く理解できなかった	1	3.2	1	3.7	0	0.0	1	2.7	3	2.3

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、SA]

1.2 将来の進路を考える際、本日の00Cの内容は役に立ちそうですか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
非常に役に立つ	14	45.2	14	51.9	19	52.8	24	64.9	71	54.2
少し役に立つ	15	48.4	12	44.4	15	41.7	8	21.6	50	38.2
あまり役に立たない	2	6.5	1	3.7	2	5.6	4	10.8	9	6.9
全く役に立たない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.7	1	0.8

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、SA]

1.3 本日の00Cの実施環境（設備・現場支援・時間等）はいかがでしたか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
よかった	19	61.3	20	74.1	20	55.6	19	51.4	78	59.5
どちらかと言えばよかった	11	35.5	6	22.2	16	44.4	17	45.9	50	38.2
少し問題があった	1	3.2	1	3.7	0	0.0	1	2.7	3	2.3
大いに問題があった	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、SA]

1.4 本日の00Cに参加したことで、日本への留学・就職の意欲は高まりましたか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
大いに高まった	19	61.3	10	37.0	7	19.4	11	29.7	47	35.9
少し高まった	12	38.7	15	55.6	23	63.9	20	54.1	70	53.4
あまり高まらなかった	0	0.0	1	3.7	2	5.6	5	13.5	8	6.1
全く高まらなかった	0	0.0	0	0.0	4	11.1	1	2.7	5	3.8
無回答	0	0.0	1	3.7	0	0.0	0	0.0	1	0.8

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、SA]

1.5 本日の00Cで「面白い！ 興味深い！」「勉強になった！」と感じたテーマはどれですか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
実施委員長の話	3	9.7	5	18.5	5	13.9	7	18.9	20	15.3
日本企業の話	11	35.5	18	66.7	11	30.6	14	37.8	54	41.2
日本での就職	18	58.1	12	44.4	14	38.9	9	24.3	53	40.5
日本への留学	19	61.3	9	33.3	13	36.1	11	29.7	52	39.7
日本での生活	15	48.4	11	40.7	21	58.3	11	29.7	58	44.3
日本語の学習	4	12.9	3	11.1	8	22.2	7	18.9	22	16.8
先輩（留学生）の話	20	64.5	3	11.1	11	30.6	6	16.2	40	30.5
質疑応答	4	12.9	0	0.0	3	8.3	6	16.2	13	9.9
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.7	1	0.8
特にない	0	0.0	1	3.7	0	0.0	0	0.0	1	0.8

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、MA3]

1.6 今後もこのような交流イベントがあれば、また参加したいと思いますか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
ぜひ参加したい	23	74.2	15	55.6	5	13.9	15	40.5	58	44.3
都合がよければ参加したい	7	22.6	12	44.4	28	77.8	21	56.8	68	51.9
あまり参加したくない	1	3.2	0	0.0	3	8.3	1	2.7	5	3.8
全く参加したくない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、SA]

2 日本への就職・留学について

2.1 あなたが知っている日本企業はどれですか。企業ロゴマークを○で囲んでください。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
全日本空輸株式会社	6	19.4	8	29.6	3	8.3	0	0.0	17	13.0
株式会社アバン	1	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8
キヤノン株式会社	27	87.1	25	92.6	21	58.3	13	35.1	86	65.6
株式会社カプコン	13	41.9	9	33.3	7	19.4	5	13.5	34	26.0
株式会社サイバーコネクトツー	2	6.5	0	0.0	0	0.0	1	2.7	3	2.3
フレームストア	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
富士通株式会社	2	6.5	5	18.5	6	16.7	3	8.1	16	12.2
株式会社ぐるなび	2	6.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.5
株式会社日立製作所	2	6.5	4	14.8	11	30.6	7	18.9	24	18.3
東日本旅客鉄道株式会社	23	74.2	21	77.8	2	5.6	0	0.0	46	35.1
アルティウスリンク株式会社	1	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8
株式会社コナミデジタルエンタテインメント	10	32.3	12	44.4	7	19.4	4	10.8	33	25.2
株式会社MARK	1	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	2	6.5	3	11.1	0	0.0	0	0.0	5	3.8
株式会社オムニバス・ジャパン	0	0.0	1	3.7	1	2.8	0	0.0	2	1.5
楽天グループ株式会社	17	54.8	18	66.7	4	11.1	1	2.7	40	30.5
株式会社セガ	23	74.2	20	74.1	7	19.4	7	18.9	57	43.5
株式会社島津製作所	0	0.0	1	3.7	5	13.9	4	10.8	10	7.6
ソフトバンク株式会社	15	48.4	11	40.7	7	19.4	3	8.1	36	27.5
株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス	6	19.4	2	7.4	1	2.8	2	5.4	11	8.4
株式会社SUBARU	4	12.9	6	22.2	10	27.8	8	21.6	28	21.4
株式会社スタジオヴォルン	0	0.0	0	0.0	1	2.8	0	0.0	1	0.8
株式会社サンライズ	8	25.8	7	25.9	1	2.8	1	2.7	17	13.0
東京地下鉄株式会社	5	16.1	2	7.4	0	0.0	0	0.0	7	5.3
トヨタ自動車株式会社	26	83.9	24	88.9	30	83.3	23	62.2	103	78.6
ユーフォーテーブル有限公司	14	45.2	11	40.7	3	8.3	3	8.1	31	23.7
株式会社USEN-NEXT HOLDINGS	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
株式会社ZOZO	1	3.2	1	3.7	4	11.1	5	13.5	11	8.4
その他 (東映(株)・日産自動車(株)・スズキ(株)・(株)バンダイナムコホールディングス・(株)ボンズ)	0	0.0	4	14.8	1	2.8	0	0.0	5	3.8

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、MA]

2.2 日本で就職した場合、あなたは最低でもどの程度の年収を得たいと考えますか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
¥20,000,000～（約213万円） ¥400,000,000～（約248万円）	1	3.2	2	7.4	2	5.6	1	2.7	6	4.6
¥25,000,000～（約266万円） ¥500,000,000～（約310万円）	5	16.1	16	59.3	5	13.9	11	29.7	37	28.2
¥30,000,000～（約320万円） ¥600,000,000～（約372万円）	17	54.8	7	25.9	5	13.9	4	10.8	33	25.2
¥35,000,000～（約373万円） ¥800,000,000～（約496万円）	8	25.8	2	7.4	22	61.1	16	43.2	48	36.6
わからない	0	0.0	0	0.0	2	5.6	5	13.5	7	5.4

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、SA]

2.3 実際に日本に留学する場合、あなたが不安に思ったり心配したりすることは何ですか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
日本語能力の不足	12	38.7	13	48.1	24	66.7	22	59.5	71	54.2
日本の教育方式への対応	3	9.7	4	14.8	9	25.0	11	29.7	27	20.6
文化や生活習慣の違いへの適応	6	19.4	11	40.7	10	27.8	11	29.7	38	29.0
留学先での人間関係の不安	13	41.9	7	25.9	17	47.2	5	13.5	42	32.1
母国の家族や友人との距離	13	41.9	7	25.9	8	22.2	10	27.0	38	29.0
日本での医療や健康面のサポート	13	41.9	5	18.5	3	8.3	3	8.1	24	18.3
ビザや留学手続きの手間	4	12.9	3	11.1	8	22.2	4	10.8	19	14.5
学費や生活費の負担	16	51.6	11	40.7	17	47.2	6	16.2	50	38.2
留学後のキャリアへの影響	4	12.9	4	14.8	2	5.6	5	13.5	15	11.5
安全性（自然災害・治安等）	5	16.1	4	14.8	9	25.0	5	13.5	23	17.6
その他*	2	6.5	1	3.7	0	0.0	1	2.7	4	3.1
特になし	0	0.0	0	0.0	1	2.8	0	0.0	1	0.8

[その他：「年齢」「税金」「ゴキブリの大きさ」、n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、MA3]

2.4 実際に日本に留学する場合、あなたが必要と思うサポートは何ですか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
日本語能力向上のためのプログラム	7	22.6	15	55.6	18	50.0	18	48.6	58	44.3
留学先での住居に関するサポート （寮・アパート探し等）	23	74.2	18	66.7	23	63.9	22	59.5	86	65.6
留学先での生活に関するガイダンス	7	22.6	3	11.1	12	33.3	7	18.9	29	22.1
就職活動・インターンシップ支援や キャリア相談・ガイダンス等	18	58.1	18	66.7	15	41.7	20	54.1	71	54.2
留学前後の各種事務手続きのサポート	3	9.7	4	14.8	6	16.7	5	13.5	18	13.7
医療保険や健康サポートの案内	14	45.2	7	25.9	7	19.4	4	10.8	32	24.4
留学先での日本人学生や母国留学生との 交流機会	7	22.6	0	0.0	10	27.8	4	10.8	21	16.0
学費や奨学金に関する情報提供	15	48.4	9	33.3	11	30.6	5	13.5	40	30.5
その他	0	0.0	0	0.0	1	2.8	1	2.7	2	1.5
特になし	0	0.0	1	3.7	3	8.3	1	2.7	5	3.8

[n=131] (① 31・② 27・③ 36・④ 37)、MA3]

2.5 あなたは日本にどのような魅力を感じていますか。

選択肢	① 12/05		② 12/11		③ 12/22AM		④ 12/22PM		全 体	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
漫画・アニメ等のポップカルチャー	20	64.5	19	70.4	29	80.6	20	54.1	88	67.2
茶道・着物等の伝統文化	4	12.9	10	37.0	11	30.6	12	32.4	37	28.2
寺社・城等の歴史的建築物	6	19.4	5	18.5	5	13.9	2	5.4	18	13.7
治安がよい安全な環境	3	9.7	3	11.1	4	11.1	5	13.5	15	11.5
おいしく新鮮で健康的な和食	14	45.2	14	51.9	21	58.3	20	54.1	69	52.7
公共交通機関の便利さと正確さ	3	9.7	1	3.7	3	8.3	2	5.4	9	6.9
テクノロジーと先進的な都市（新幹線・ロボット等）	2	6.5	1	3.7	8	22.2	8	21.6	19	14.5
教育の質が高い学校や大学	6	19.4	2	7.4	4	11.1	6	16.2	18	13.7
ショッピングやファッションの豊富さ	8	25.8	5	18.5	7	19.4	1	2.7	21	16.0
親切で礼儀正しく謙虚な人々	11	35.5	4	14.8	11	30.6	8	21.6	34	26.0
観光地の多様性（都市/地方・自然・離島等）	15	48.4	6	22.2	12	33.3	9	24.3	42	32.1
その他*	1	3.2	3	11.1	1	2.8	1	2.7	6	4.6
特にな	0	0.0	1	3.7	0	0.0	0	0.0	1	0.8

[その他：「ゲーム」「日本語」「日本文化全般」「バンド」、n=131（① 31・② 27・③ 36・④ 37）、MA3]

ここでは、本アンケート（二部構成）の「1 本日のOOCについて」の回答集計結果に限定して言えば、

- 1.1（OOC内容の理解度）は、「少し理解できた」（51.1%）が最上位回答で、「よく理解できた」「少し理解できた」のポジティブ回答が全体の9割以上（93.9%）を占めた。1.2（OOCの今後有用性）は、「非常に役に立つ」（54.2%）が最上位回答で、「非常に役に立つ」「少し役に立つ」のポジティブ回答が全体の9割以上（92.4%）を占めた。1.3（OOC実施環境の満足度）は、「よかった」（59.5%）が最上位回答で、「よかった」「どちらかと言えばよかった」のポジティブ回答がほぼ全体（97.7%）を占めた。1.4（OOC参加による意欲向上度）は、「少し高まった」（53.4%）が最上位回答で、「大いに高まった」「少し高まった」のポジティブ回答が全体の9割近く（89.3%）を占めた。1.5（OOCで関心を持ったテーマ）は、「日本での生活」（44.3%）・「日本企業の話」（41.2%）・「日本での就職」（40.5%）が上位3回答であった。1.6（次回以降OOCへの参加意向）は、「都合がよければ参加したい」（51.9%）が最上位回答で、「ぜひ参加したい」「都合がよければ参加したい」のポジティブ回答がほぼ全体（96.2%）を占めた。

以上から、本年度に韓国・ベトナムの2国を対象にして催行した計4回のオンラインオープンキャンパスは、好評を得て概ね成功であったと言える。

第5章

事業総括

5.1 本年度事業の課題

本事業は、当校が令和6年6月に起案し、同年6月20日に企画提案したものである。しかし、事業受託の決定まで時間を空費し、実際に事業を開始したのは令和6年9月27日であった。そして、同日から令和7年3月1日まで、5箇月強に亘って実施された。

この正味半年に満たなかった事業実施では、幾つかの課題も見えてきた。その主なものを、改善策案と共に2点、以下に整理する。

- 1) 調査は、設計・実施・集計・報告が精一杯で、きめ細やかな分析と熟議・考察に十分な時間と手間を充当できなかった。そのため、開発案件や催行準備に着手せねばならなかったこともあり、各調査の結果・考察をウェブサイト等の制作やオンラインオープンキャンパスの設計に十分に反映できたとは言い難い。

【改善策案】次年度（令和7年度）事業では、教育プログラムの科目の設計やコンテンツ制作、そして実証に取り組むが、その過程で本年度事業の各調査の見直し・再分析も行う。その上で、本年度開発したウェブサイト&リーフレットや選抜試験、催行したオンラインオープンキャンパスも並行的に修正し、それを反映した開発・催行に取り組む。

- 2) 開発は、事業計画時の一定の仮説に基づき、調査実施前から複数件を同時並行的に進めねばならなかった。そのような中で、特にウェブサイト&リーフレットや選抜試験は、その仕様について、当校内および事業推進委員会でも意見が錯綜した。そのため、当初計画していた仕様を変更することになり、本年度事業では、メディアの活用でなく、催行内容の調整に注力することにした。その結果、オンラインオープンキャンパスは密度の濃いものを実施できたが、メディアの改修は次年度事業に繰り延べざるを得なくなった。

【改善策案】次年度事業では、当初計画していたIT留学生教育プログラムを開発するのと共に、本年度事業から繰り延べた情報発信メディアの改良・洗練を行わねばならない。出来る限り早い事業開始を期待しつつ、その上で余裕のある開発スケジュールと開発体制を敷く。

いずれにせよ、次年度事業は、本年度事業の成果を踏まえた次段階および完成を目指す取組ではあるが、その前に（またはその過程で）本年度事業成果の見直し・調整の作業は必要になる。

5.2 次年度事業の計画

次年度（令和7年度）事業では、IT留学生教育プログラムの全体カリキュラム&4科目シラバスの策定と、各種教育コンテンツ（講義教材・演習課題・実習PBL・自習問題等）の開発に取り組む。そして、実証講座を実施するため、対面授業での演習・実習も組み込んだ実証用ミニプログラムを設計・開発せねばならない。

具体的な実施内容（予定）は次の通りである。

会 合： ○ 事業推進委員会（3回開催予定）

○ 分科会・各種打合せ（随時・関係者等）

調 査： ④ IT専修学校留学生教育実態調査

⑤ IT留学予備生キャリア意識調査

⑥ IT留学生用日本語教材事例調査

開 発： 06 日本IT留学ウェブサイト（中語）制作

07 日本IT留学リーフレット（中語）制作

08 IT留学生学修評価基準策定

09 IT留学生教育プログラム全体カリキュラム開発

10 IT留学生教育プログラム科目シラバス（4科目）作成

11 IT留学生教育プログラム教育コンテンツ（4科目）作成

12 オンライン教育システム構築

実 証： ◇ 実証講座 実施（1～2箇月程度）

※ 教育プログラムの一部の科目・単元を選定・再構成したミニプログラム

催 行： ◆ オンラインオープンキャンパス（中国）開催（1～2回）

◆ オンラインオープンキャンパス（韓国）開催（1～2回）

◆ オンラインオープンキャンパス（越南）開催（1～2回）

評 価： □ 学修評価基準での到達度評価

□ 成果物（講義・演習・実習・自習の各コンテンツ）への指導者評価

□ 自習CBT（小テスト）での理解度チェック

□ 実証講座アンケート&ヒヤリング（受講者・指導者）

□ 事業推進委員会における有効性検証

以上を踏まえ、次年度事業では、広報募集媒体の改良・拡充、教育プログラムの開発（実証・評価を含む）、オンラインオープンキャンパス（中韓越の3国）の開催に取り組む。

5.3 事業終了後の展開

本事業では令和6～9年度、IT専修学校における留学生受入れ促進および教育・生活・就職支援として、ウェブ広報&オンライン説明会、IT留学生補完教育、生活・就職支援カンファレンス等の実施に、産学官連携で取り組む。

本事業終了後、成果の活用・発展を図るべく、事業推進委員会構成機関を中心にして産学官連携の外国人IT人材アジア連携留学支援コンソーシアムを組織する。

そこでは、本事業でモデル構築した外国人IT人材アジア連携留学支援体制の洗練・拡充と発展的運用を図る。具体的には、次のような取組を想定する。

令和10年度

- 産学官連携コンソーシアムの組織
- 本モデル（特にウェブサイト・教育プログラム・生活就職支援カンファレンス）の拡充・普及

令和11年度

- 本モデルの他国（ネパール・インドネシア・インド等）および他分野（製造・外食・観光等）への展開

令和12年度

- 本モデルの各種在留資格（留学・高度専門職・特定技能等）との連動、
- 各分野外国人材の評価を支援・促進する「国際検定試験支援センター」の設置



文部科学省委託 専修学校の国際化推進事業——外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備

外国人IT人材の養成・就職を促進する専修学校アジア連携留学支援体制の整備

事業報告書 令和6年度

発行日——2025年3月1日 初版第1刷発行

発行者——学校法人電子学園 日本電子専門学校

〒169-8852 東京都新宿区百人町1-25-4

TEL 03-3363-7761 URL <https://www.jec.ac.jp/>

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人電子学園 日本電子専門学校が実施した令和6年度「専修学校の国際化推進事業」の成果を取り纏めたものです。
